

平成30—令和元年度

府中市 美術館 年報

ANNUAL
REPORTS
OF
FUCHU
ART
MUSEUM

April 2018—March 2020

府中市美術館年報 — 平成30—令和元年度 —

ANNUAL REPORTS OF FUCHU ART MUSEUM April 2018—March 2020

平成30—令和元年度

府中市
美術館
年報

ANNUAL
REPORTS
OF
FUCHU
ART
MUSEUM

April 2018–March 2020

沿革..... 4

1. 展覧会事業
1 | 企画展広報物・図録及び出版物 5
2 | 企画展一覧10
3 | 常設展一覧38

2. 作品及び資料
1 | 新収蔵作品39
2 | 美術資料の修復41
3 | 作品貸出状況41
4 | 図書及びその他の資料43

3. 教育普及事業
1 | 公開制作44
2 | アートスタジオ49
3 | ワークショップ51
4 | 美術鑑賞教室52
5 | 教員研修会52
6 | 団体鑑賞支援53
7 | 大学等連携事業53

4. ボランティア活動55

5. 市民文化の日55

6. 市民ギャラリー
1 | 利用一覧56
2 | 市民ギャラリーにおける主催・共催事業57

7. 出版・広報
1 | 出版物58
2 | ホームページ58

8. 調査研究58

9. 利用者数一覧59

10. 関係法規等
1 | 関係法規60
2 | 組織65
3 | 各種委員会65

11. 利用案内
1 | 開館時間、休館日、観覧料など66
2 | 館内設備66
3 | 交通案内66
4 | 所在地66

沿革

1983(昭和58)年
4月 昭和44年、51年の長期計画に続いて、総合計画に「美術館の建設」が盛り込まれる。

1986(昭和61)年
4月 文化振興基金に10億円を目標に美術品購入のための積み立てを開始。
8月 市民参加による第一次文化懇談会から「美術文化の核となる美術館建設」の提言を受ける。

1991(平成3)年
3月 市民参加による第二次文化懇談会が美術館建設を提言。
9月 市民参加による美術館建設検討協議会が「府中市美術館の基本構想について」を答申する。

1994(平成4)年
12月 文教委員会に美術館建設予定地を都立府中の森公園とすること、東北地方の個人が所有する近代洋画のコレクションを一括購入することが報告され、交渉が了承される。

1996(平成8)年
6月 文教経済委員会が、8度にわたる市民関係団体との懇談会を踏まえて修正された基本計画を了承。

1997(平成9)年
3月 文教経済委員会に、基本設計を報告。市議会が実施設計及び建設工事の予算を可決。
11月 東京都が美術館の設置を許可(公園施設設置許可)。
12月 建設工事着工。

1998(平成10)年
6月 洋画家牛島憲之の作品111点が遺族から府中市に寄贈される。

1999(平成11)年
9月 「府中市美術館条例」が市議会で可決、施行される。

2000(平成12)年
6月 建設工事竣工。
10月14日 府中市美術館開館。

2004(平成16)年
10月 府中市制施行50周年記念「牛島憲之と昭和前期の絵画―抽象と具象のあいだ」展を開催。

2009(平成21)年
11月 府中市制施行55周年記念「ターナーから印象派へ『光のなかの自然』」展を開催。

2010(平成22)年
9月 開館10周年記念展「バルビゾンからの贈りもの―至高なる風景の輝き」を開催。

2014(平成26)年
5月 府中市制施行60周年記念「東京・ソウル・台北・長春―官展にみるそれぞれの近代美術」展を開催。
9月 府中市制施行60周年記念「生誕200年 ミレー展―愛しきものたちへのまなざし」展を開催。

2018(平成30)年
3月 コレクションの充実のため美術品購入基金が新たに設置される。
9月 エントランスロビーの天井改修補強工事等を実施。翌年3月まで休館。

2019(平成31・令和元)年
5月 府中市制施行65周年記念「棟方志功展」を開催。
9月 府中市制施行65周年記念「おかえり『美しき明治』」展を開催。

1 展覧会事業 1 | 企画展広報物・図録及び出版物

1. 長谷川利行展 七色の東京 [平成30年5月19日―7月8日]



[チラシ]



【図録】

編集：福島県立美術館、府中市美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、久留米市美術館、足利市立美術館
発行：一般社団法人INDEPENDENT

2. 有島武郎『生れ出づる悩み』出版100年記念 青春の苦悩と孤独を歓喜にかえた画家たち 木田金次郎展 [平成30年7月21日―9月2日]



[チラシ]



【図録】

編集・発行：府中市美術館

3. へそまがり日本美術 禅画からヘタウマまで [平成31年3月16日ー令和元年5月12日]



[チラシ]



[図録]
編集：府中市美術館
発行：講談社

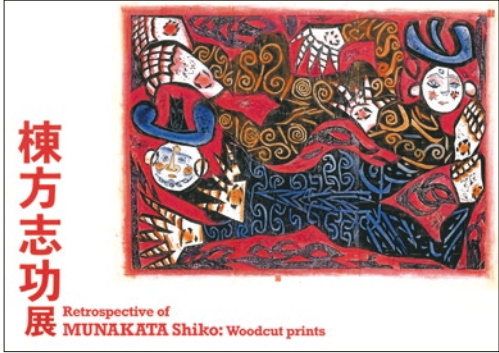


[ワークシート]
編集・発行：府中市美術館

4. 府中市制施行65周年記念 棟方志功展 [令和元年5月25日ー7月7日]



[チラシ]



[図録]
編集・発行：府中市美術館



[ワークシート]
編集・発行：府中市美術館

5. ぱれたん ゆめのせかい [令和元年7月20日ー9月1日]



[チラシ]



[ワークシート]
編集・発行：府中市美術館

6. 府中市制施行65周年記念 おかえり「美しき明治」 [令和元年9月14日ー12月1日]

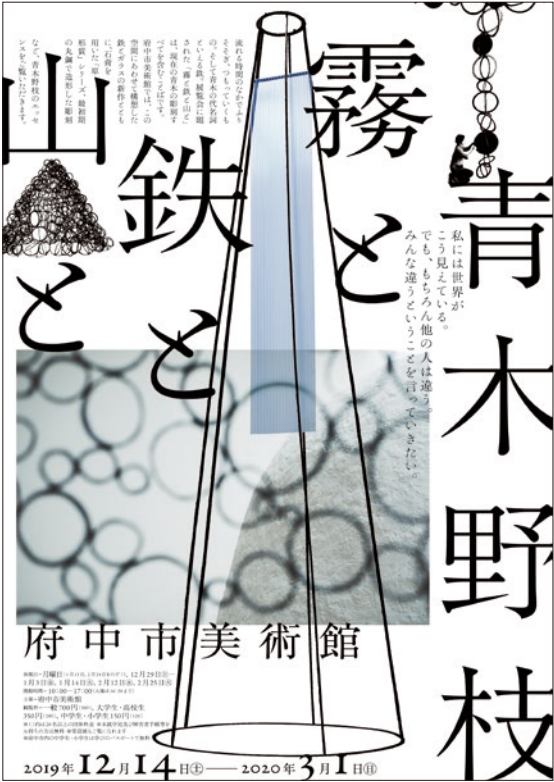


[チラシ]

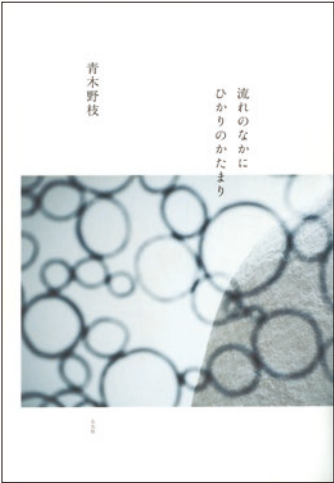


[図録]
編集・発行：府中市美術館

7. 青木野枝 霧と鉄と山と [令和元年12月14日ー令和2年3月1日]



[チラシ]



〔図録〕
『流れのなかにひかりのかたまり』
編集：府中市美術館
発行：左右社



〔記録集〕
編集・発行：府中市美術館

8. ふつうの系譜 「奇想」があるなら「ふつう」もありますー京の絵画と敦賀コレクション

[令和2年3月14日ー5月10日]



[チラシ]



〔図録〕
編集・発行：府中市美術館



〔ワークシート〕
編集・発行：府中市美術館

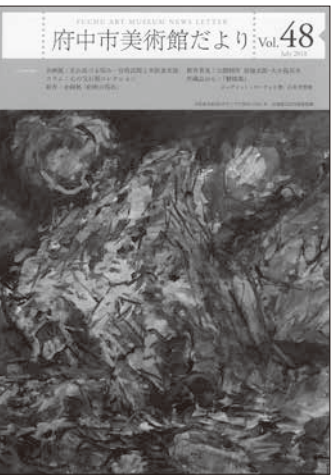
公開制作パンフレット



公開制作のコンセプトや制作状況を記録したパンフレット(A4判、6頁)
編集・発行：府中市美術館

公開制作73 金田実生 青空と月
公開制作74 富長敦也 Love Stone Project-Fuchu
公開制作75 原田郁 もうひとつの世界 10年目の地図
公開制作76 山口啓介 メタモルフォーセス
公開制作77 高嶋英男 からつばに満たされる

府中市美術館だより



展覧会などの紹介や関連記事を掲載した小冊子
(B5判、カラー 8頁 年2回発行)
編集・発行 府中市美術館

Vol.48 平成30年7月
Vol.49 平成31年2月
Vol.50 令和元年9月
Vol.51 令和2年3月

年間スケジュール



2018.4-2019.3

2019.4-2020.3

研究紀要

府中市美術館研究紀要 第22号
令和元年3月31日

2 | 企画展一覧

平成30年度

- 長谷川利行展 七色の東京
〔平成30年5月19日－7月8日〕
- 有島武郎『生れ出づる悩み』出版100年記念
青春の苦悩と孤独を歓喜にかえた画家たち 木田金次郎展
〔平成30年7月21日－9月2日〕
- へそまがり日本美術 禅画からヘタウマまで
〔平成31年3月16日－5月12日〕

令和元年度

- 府中市制施行65周年記念 棟方志功展
〔令和元年5月25日－7月7日〕
- ばれたん ゆめのせかい
〔令和元年7月20日－9月1日〕
- 府中市制施行65周年記念 おかえり「美しき明治」
〔令和元年9月14日－12月1日〕
- 青木野枝 霧と鉄と山と
〔令和元年12月14日－令和2年3月1日〕
- ふつうの系譜 「奇想」があるなら「ふつう」もありますー京の絵画と敦賀コレクション
〔令和2年3月14日－5月10日〕

1. 長谷川利行展 七色の東京

〔平成30年5月19日－7月8日〕

開催主旨：

関東大震災から太平洋戦争の直前まで、東京の下町を歩き回り、怒涛のように描いた画家・長谷川利行（1891-1940）。京都に生まれ、20代は短歌の道を志し、30歳を過ぎてから上京。ほとんど独学と思われる油絵が二科展や1930年協会展で認められたものの、浅草や新宿などの木賃宿を転々とする生活が続け、最後は三河島の路上で倒れ板橋の東京市養育院で49年の生涯を閉じた。明るい色彩と鋭い筆勢で描かれた作品は、昭和初期のモダンな建築物やそこに暮らす人々の姿を生き生きと捉え、近年再評価が進んでいる。本展は約18年ぶりとなる回顧展であり、福島県立美術館・碧南市藤井達吉現代美術館・久留米市美術館・足利市立美術館の4館とともに共同で開催した。これまで謎と伝説に彩られてきた生涯を文献等から再検討し、同時代の写真や地図とともに紹介した。出品作品は近年の再発見作《カフェ・パウリスタ》、《水泳場》、約40年ぶりの公開となる《夏の遊園地》、そして新発見の大作《白い背景の人物》など144点で、新しい長谷川利行像を提示する機会となった。

観覧料：

一般900円（720円）、高校生・大学生450円（360円）、小学生・中学生200円（160円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

後援：

朝日新聞社

協力：

長谷川利行の会

企画協力：

一般社団法人INDEPENDENT

出品点数：

144点

入場者数：

15,138名（開催日数：44日間、1日平均344名）

印刷物：

〔カタログ〕B5判236頁 〔ポスター〕B2判 〔チラシ〕A4判二つ折4頁

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

小林真結（当館学芸員）、5月20日・6月2日・10日・16日・24日・30日、講座室（339名）

〔展覧会講座「利行が歩いた東京」〕

小林真結（当館学芸員）、6月17日、講座室（115名）

〔展覧会講座「美術と生活」〕

原田光（本展監修者、美術史家）、7月7日、講座室（135名）

関連記事：

原田光 「長谷川利行展 藝術に生き、雑踏に死す 驚くべき新出の傑作たち」 新美術新聞 2018年3月21日号

「巻頭特集 長谷川利行 純粹なる魂の彷徨」『美術の窓』

2018年4月号

窪田直子 「自由闊達な筆致と色彩 長谷川利行展」 日本経済新聞

2018年4月11日

渋谷和彦 「放浪の画家 奔放に生きた美の証し 長谷川利行展」

産経新聞 2018年5月27日

「復興する東京 力強く描く 府中市美術館 長谷川利行の展覧会」

読売新聞多摩版 2018年6月12日

「府中市美術館 速写された東京の街と人 長谷川利行展 七色の東京」 都政新聞 2018年6月12日

「芸能・文化 線で溶け合う背景と人物 東京で『長谷川利行展』」

中國新聞 SELECT 2018年6月12日

「美術 『線の画家』を堪能 『長谷川利行展 七色の東京』」

千葉日報 2018年6月13日

「『線の画家』作品を堪能 東京で長谷川利行展」 愛媛新聞

2018年6月14日

「文化 『線の画家』を堪能 長谷川利行展 都市に殉じた生涯」

中部経済新聞 2018年6月18日

大西若人 「美の履歴書555 ざわめきが聞こえるのは 『水泳場』 長谷川利行」

朝日新聞 2018年6月19日

「美術話題 都内で長谷川利行展 『線の画家』を堪能」 徳島新聞

2018年6月19日

「文化 復興の帝都『線』で表現 東京で長谷川利行回顧展」

河北新報 2018年6月19日

藤田一人 「長谷川利行展 七色の東京 “生きる”ための絵」

公明新聞 2018年6月20日

「文化 帝都の新風景好んだ“線の画家” 市井に生きる人々にも焦点 東京で長谷川利行展」 京都新聞 2018年6月25日

「文化 長谷川利行展『線の画家』を堪能 都市に殉じたスピード感」

南日本新聞 2018年6月27日

「文化 線で描く風景や肖像 『長谷川利行』回顧展」 茨城新聞

2018年6月28日

「『線の画家』を堪能 長谷川利行展」日本海新聞 2018年6月29日

「金曜アート 東京・府中で長谷川利行展 線で描いた都市の風景」

信濃毎日新聞 2018年6月29日

「文化 『線の画家』を堪能 東京・府中市美術館『長谷川利行展』」

新潟日報 2018年6月29日

坪内祐三 「坪内祐三の美術批評 眼は行動するno.282 関東大震災後の東京を描き続けた長谷川利行の『上野大時計』」『週刊ポスト』

2018年6月29日号

「発見! 長谷川利行の白い五人の女」『芸術新潮』 2018年7月号

川本三郎 「東京つれづれ日誌99 ガスタンクと鉄道のある風景。」

『東京人』 2018年9月号

・本展は、「2018年美連協優秀カタログ賞自主展部門」を受賞した。

出品作品

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	田端変電所	1923(大正12)年	油彩、カンヴァス	広島県立美術館蔵
2	自画像	1925(大正14)年頃	油彩、カンヴァス	個人蔵
3	陸橋みち	1927(昭和2)年	油彩、カンヴァス	公益財団法人かみや美術館蔵
4	酒売場	1927(昭和2)年	油彩、カンヴァス	愛知県美術館蔵
5	浅草停車場	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	泰明画廊蔵
6	地下鉄道	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
7	夏の遊園地	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
8	汽罐車庫	1928(昭和3)年頃	油彩、カンヴァス	鉄道博物館蔵
9	カフェ・パウルスタ	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	東京国立近代美術館蔵
10	カフェ・オリエント内のスタンド	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	ウッドワン美術館蔵
11	居酒屋	1928(昭和3)年	水彩・墨、紙	個人蔵
12	Y子の像	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
13	鬨光像	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
14	子守娘	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
15	針金の上の少女	1928(昭和3)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
16	タンクのある風景	1929(昭和4)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
17	カフェ・パウルスタ	1929(昭和4)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
18	童女	1929(昭和4)年	鉛筆・パステル、紙	個人蔵
19	カフェの入口	1930(昭和5)年	油彩、カンヴァス	府中市美術館蔵
20	岸田国土像	1930(昭和5)年	油彩、カンヴァス	東京国立近代美術館蔵
21	カフェの女	1930(昭和5)年	油彩、板	個人蔵
22	酒祭り・花鳥喜世子	1930(昭和5)年頃	油彩、カンヴァス	宮城県美術館蔵(洲之内コレクション)
23	日暮里駅付近	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
24	鉄工場の裏	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	東京国立近代美術館蔵
25	風景	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵
26	房州保田砂鉄工場廃屋図	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
27	クレーンのある風景	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	呉市立美術館蔵
28	街並風景(彩美堂)	制作年不詳	油彩、紙	個人蔵
29	雷門風景	制作年不詳	油彩、紙	個人蔵
30	府美術館	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
31	日比谷公会堂	制作年不詳	水彩、紙	個人蔵
32	少女(質屋の子守)	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
33	男の顔	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
34	裸婦	1931(昭和6)年	水彩、紙	個人蔵
35	大根の花	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	名古屋市美術館蔵
36	百合の花	1931(昭和6)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
37	水泳場	1932(昭和7)年	油彩、カンヴァス	板橋区立美術館蔵
38	地下鉄ストアー	1932(昭和7)年	油彩、カンヴァス	東京地下鉄株式会社蔵
39	二人の活弁の男	1932(昭和7)年	油彩、カンヴァス	信越放送株式会社蔵
40	女	1932(昭和7)年	油彩、カンヴァス	京都国立近代美術館蔵
41	浅草の活弁	制作年不詳	水彩、紙	個人蔵
42	馬のいる風景	制作年不詳	鉛筆、紙	呉市立美術館蔵
43	遊学館活弁	制作年不詳	鉛筆、紙	呉市立美術館蔵
44	落花生に似た女の容姿	制作年不詳	鉛筆、紙	個人蔵
45	ナイトハウス	制作年不詳	鉛筆、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵
46	抱イテ寝モセズ	制作年不詳	鉛筆、紙	新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵
47	荒川煙突のある風景	1933(昭和8)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
48	矢野文夫氏肖像	1933(昭和8)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
49	女の顔	1933(昭和8)年	油彩、紙	個人蔵
50	カフェーオリエント	1935(昭和10)年	油彩、ボード	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
51	銀座風景	1935(昭和10)年	油彩、板	個人蔵
52	鉄橋の見える風景	1935(昭和10)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
53	荒川風景	1935(昭和10)年	油彩、ガラス	個人蔵
54	冬野	1935(昭和10)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
55	風景	1935(昭和10)年	水彩、紙	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
56	銀座ビルのある風景	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
57	上野駅前 車坂風景	制作年不詳	水彩、紙	個人蔵
58	風景	制作年不詳	水彩、紙	個人蔵
59	大和家かほる	1935(昭和10)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
60	安来節の女	1935(昭和10)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
61	浅草の女	1935(昭和10)年	油彩、カンヴァス	福島県立美術館蔵

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
62	四人裸婦	1935(昭和10)年	油彩、カンヴァス	豊島区蔵
63	少女	1935(昭和10)年	油彩、カンヴァス	群馬県立近代美術館蔵
64	閑取	1935(昭和10)年	油彩、紙	個人蔵
65	熊谷守一像	1935(昭和10)年	水彩、紙	個人蔵
66	下町の少年像	1935(昭和10)年	水彩、紙	個人蔵
67	門づけ	制作年不詳	油彩、ボード	個人蔵
68	赤い裸婦	制作年不詳	油彩、ボード	個人蔵
69	花	1935(昭和10)年	油彩、板	個人蔵
70	カフェ・オリエント	1936(昭和11)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
71	上野広小路付近	1936(昭和11)年	油彩、カンヴァス	宇都宮美術館蔵
72	風景(浅草)	1936(昭和11)年	水彩、紙	学校法人モード女学院蔵
73	芝居小屋(旧題名:中華料理店)	1936(昭和11)年	水彩、紙	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
74	浅草風景	1936(昭和11)年	水彩・鉛筆、紙	個人蔵
75	浅草風景	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
76	浅草ロック	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館蔵
77	浅草風景	制作年不詳	水彩、紙	個人蔵
78	四宮潤一氏像	1936(昭和11)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
79	椅子に腰かけた裸婦	1936(昭和11)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
80	ムーランルージュの踊り子	1936(昭和11)年	油彩、ボード	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
81	女の顔	1936(昭和11)年	油彩、板	個人蔵
82	ハーゲンバックの少女	1936(昭和11)年	油彩、カンヴァスボード	個人蔵
83	裸少女	1936(昭和11)年	水彩、紙	個人蔵
84	青いソバックの裸婦	1936(昭和11)年	水彩、紙	個人蔵
85	足を組む裸婦	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
86	男の像	制作年不詳	油彩、カンヴァス	アルプスシャツ株式会社蔵
87	少女像	制作年不詳	油彩、紙	アルプスシャツ株式会社蔵
88	女の顔	制作年不詳	油彩、紙	個人蔵
89	静物	1936(昭和11)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
90	風景	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
91	順天堂風景	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
92	尾久遊園地	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	アルプスシャツ株式会社蔵
93	霊岸島の倉庫	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)
94	街景	1937(昭和12)年頃	油彩、板	宮城県美術館蔵(洲之内コレクション)
95	新宿風景	1937(昭和12)年頃	油彩、カンヴァス	東京国立近代美術館蔵
96	新宿風景	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
97	新宿風景	制作年不詳	油彩、紙	神奈川県立近代美術館蔵(北川原コレクション)
98	三河島風景	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
99	須田町風景	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
100	伊豆大島	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)
101	大島の手	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	アルプスシャツ株式会社蔵
102	白い背景の人物	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
103	モナミの少女	1937(昭和12)年	油彩、板	個人蔵
104	ノアノアの少女	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)
105	女の顔(大島アンコ)	1937(昭和12)年	油彩、紙	個人蔵
106	女	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	横須賀美術館蔵
107	トルソーの女	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
108	婦人像	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	公益財団法人大川美術館蔵
109	婦人像	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
110	二人の女	1937(昭和12)年	油彩、紙	公益財団法人大川美術館蔵
111	青布の裸婦	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
112	眠れる女	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	アルプスシャツ株式会社蔵
113	裸婦	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
114	天城俊彦像	1937(昭和12)年	水彩、紙	個人蔵
115	ラスキン文庫	制作年不詳	水彩、紙	アルプスシャツ株式会社蔵
116	ノアノアの少女図	制作年不詳	油彩、カンヴァスボード	個人蔵
117	裸婦	制作年不詳	油彩、合板に紙	個人蔵(福島県立美術館寄託)
118	裸婦	制作年不詳	油彩、紙	個人蔵
119	紫の裸婦	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
120	裸婦	1937(昭和12)年	油彩、ガラス	宮城県美術館蔵(洲之内コレクション)
121	湯浴する女	制作年不詳	油彩、ガラス	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
122	裸婦	制作年不詳	油彩、ガラス	神奈川県立近代美術館蔵(北川原コレクション)
123	サーカスの女	制作年不詳	油彩、ガラス	個人蔵

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
124	女の顔	制作年不詳	油彩、ガラス	個人蔵
125	裸婦	制作年不詳	油彩、ガラス	アルプスシャツ株式会社蔵
126	ねこ	制作年不詳	油彩、ガラス	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
127	硝子器にりんご	1937(昭和12)年	油彩、紙	個人蔵
128	菊花など	1937(昭和12)年	油彩、カンヴァス	愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)
129	水蓮	1937(昭和12)年	油彩、板	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
130	田端風景	1938(昭和13)年	油彩、カンヴァス	個人蔵
131	新宿風景	1938(昭和13)年	水彩、紙	個人蔵
132	隅田川風景	制作年不詳	水彩、紙	個人蔵
133	婦人像	1938(昭和13)年	油彩、カンヴァスボード	個人蔵
134	少女像	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
135	裸婦	1938(昭和13)年	油彩、カンヴァス	石橋財団プリダストン美術館蔵
136	相撲	1938(昭和13)年	油彩、ガラス	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
137	相撲(駒の里・桂川取組)	1938(昭和13)年	油彩、ガラス	福島県立美術館蔵(河野保雄コレクション)
138	双葉山土俵入	1938(昭和13)年頃	油彩、ボード	個人蔵
139	土州山	制作年不詳	油彩、紙	個人蔵
140	名寄岩	制作年不詳	油彩、紙	個人蔵
141	パンジー	1938(昭和13)年	油彩、カンヴァス	愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)
142	龍泉寺町風景	1939(昭和14)年	油彩、紙	個人蔵
143	荒川風景	1939(昭和14)年	油彩、ボード	府中市美術館蔵
144	男の顔(自画像)	1939(昭和14)年	水彩、紙	個人蔵
追加出品	子供	1929(昭和4)年	油彩、カンヴァス	個人蔵

* No.95は府中会場不出品

2. 有島武郎『生れ出づる悩み』出版100年記念 青春の苦悩と孤独を歓喜に変えた画家たち 木田金次郎展

〔平成30年7月21日－9月2日〕

開催主旨：

近代日本を代表する文学者のひとり、有島武郎（1878（明治11）年～1923（大正12）年）の代表作である小説『生れ出づる悩み』は、1918（大正7）年に発表され、2018（平成30）年に出版100年を迎えた。芸術家たちの生活と創作の苦悩を綴ったこの小説は、いまなお多くの人を惹きつける力をもっている。

作者・有島武郎が、この小説のモデルである画家・木田金次郎（1893（明治26）年～1962（昭和37）年）と出会ったのは、1910（明治44）年のことである。当時、東北帝国大学農科大学（現・北海道大学）で教鞭を取っていた有島の自宅を、木田が自作を携えて訪れたことから、両者の交流ははじまる。木田は有島から多くの薫陶を受け、とりわけ地方の漁村である北海道岩内で創作活動が続けることを強く勧められた。一方、有島も木田の作品と活動に感銘を受け、両者の交友を小説作品へと昇華していった。

本展覧会では、木田金次郎の生涯にわたる作品約100点や、有島武郎との交流を示す関連資料などを紹介し、小説『生れ出づる悩み』誕生の背景をさぐった。さらに、近年この小説に触発されて制作された若手美術家たちの作品や、福井で炭焼きをしながら絵画制作を続けた渡邊淳など孤高の活動を繰り広げた作家たちの作品を紹介することで、この小説で取り上げられた主題の多角的な展開をしめした。

木田金次郎というひとりの画家に焦点をあてながら、近代日本における文学と絵画のひとつの関わり、そして創作活動の苦悩と歓喜について掘り下げた企画であった。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館、有島武郎・木田金次郎プロジェクト実行委員会（ニセコ町・有島記念館、岩内町・木田金次郎美術館）、巡回企画展「出版100年記念 有島武郎『生れ出づる悩み』と画家・木田金次郎展」実行委員会

協力：

有島記念館友の会「土香る会」、平成の「生れ出づる悩み」実行委員会

助成：

一般財団法人 地域創造

出品点数：

165点

入場者数：

9,470名（開催日数：38日間、1日平均249名）

印刷物：

〔カタログ〕 B5判 96頁 〔ポスター〕 B2判 〔チラシ〕 A4判両面

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

鎌田享（当館学芸員）、7月29日・8月12日・26日・9月1日、講座室（181名）

〔展覧会講座「それぞれの『生れ出づる悩み』 有島武郎と木田金次郎」〕

鎌田享（当館学芸員）、8月18日、講座室（80名）

〔ギャラリートーク〕

伊藤大介（有島記念館主任学芸員）、岡部卓（木田金次郎美術館学芸員）

7月21日・8月5日、2階企画展示室（80名）

〔中学生のためのヴァイオリン・コンサート〕

川畠成道（ヴァイオリン）、8月4日、1階ロビー（95名）

関連記事：

渋沢和彦 「アート美 木田金次郎展 有島の死、大火乗り越え昇華」

産経新聞 2018年7月29日

宮川匡司 「心打つ故郷への思い『木田金次郎展』」 日本経済新聞

2018年8月8日

芥川喜好 「時の余白に 独創は地球の片隅から」 読売新聞

2018年8月25日

「鮮烈な色彩を堪能 府中市美術館木田金次郎作品展」

読売新聞多摩版 2018年8月30日

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
■ 第I章 小説『生れ出づる悩み』の誕生と有島武郎					
I-i 有島武郎と木田金次郎の出会いと交流					
1	木田金次郎	風景(下谷あたり)	1910(明治43)年	水彩・紙	北海道立近代美術館
2	有島武郎	黒百合会の学生たち	1909(明治42)年	水彩・紙	ニセコ町・有島記念館
3	有島武郎	やちだもの木立	1914(大正3)年	油彩・ボード	北海道大学大学院農学研究科蔵・北海道立近代美術館寄託
4	有島武郎	風景画	1895(明治28)年	水彩・紙	ニセコ町・有島記念館
5	有島武郎	軽井沢風景(秋の軽井沢)	1916(大正5)年	水彩・紙	ニセコ町・有島記念館
6	有島武郎	有島生馬小胸像	1916(大正5)年	ブロンズ	ニセコ町・有島記念館
7		雑誌「白樺」第4巻第7号(復刻版)	1913(大正2)年	書籍	ニセコ町・有島記念館
8	有島武郎	木田金次郎旧蔵『ホキットマン詩集 第一輯』	1921(大正10)年	書籍	木田金次郎美術館
9	有島武郎	木田金次郎旧蔵『ホキットマン詩集 第二輯』	1923(大正12)年	書籍	木田金次郎美術館
10	有島武郎	木田金次郎宛書簡	1920(大正9)年12月22日	書簡	木田金次郎美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
11	有島武郎	ホイットマン詩訳原稿『神』	1920(大正9)年	原稿2枚、封筒1点	ニセコ町・有島記念館
12		どんざ	不詳	刺子・木綿	木田金次郎美術館
13	有島武郎	木田金次郎宛書簡	1917(大正6)年11月3日	書簡	木田金次郎美術館
14	木田金次郎	風景	1917(大正6)年	鉛筆・紙	北海道立近代美術館
15	有島武郎	木田金次郎宛書簡	1918(大正7)年3月25日	書簡、封筒	木田金次郎美術館
16	有島武郎	『有島武郎著作集第六輯　生れ出る悩み』	1918(大正7)年	書籍	ニセコ町・有島記念館

I-ii 有島武郎と木田金次郎、その後の交友

17	有島武郎	木田金次郎宛書簡	1918(大正7)年12月21日	書簡、封筒	ニセコ町・有島記念館
18		有島武郎から木田金次郎に贈られたポートレート(有島武郎署名)	1921(大正10)年9月	写真	木田金次郎美術館

I-iii 有島武郎の歩み

19	有島生馬	岩のある風景	1909(明治42)年	油彩・カンヴァス	ニセコ町・有島記念館
20		インパネス	不詳	毛織物	ニセコ町・有島記念館
21	里見　弜	有島記念館	不詳	墨・和紙	ニセコ町・有島記念館
22	有島武郎	佐藤隆三(食事)	不詳	鉛筆・紙	ニセコ町・有島記念館
23	有島武郎	佐藤隆三(横顔・左向き)	不詳	鉛筆・紙	ニセコ町・有島記念館
24	有島武郎	佐藤隆三(横顔・右向き)	不詳	鉛筆・紙	ニセコ町・有島記念館
25	有島武郎	宮部金吾旧蔵『一房の葡萄』	1922(大正11)年	書籍	ニセコ町・有島記念館
26	有島武郎	数学帳	1888(明治21)年	墨・和紙(和本)	ニセコ町・有島記念館
27		聖書『HOLY BIBLE REFERENCES』	不詳	書籍	ニセコ町・有島記念館
28	有島武郎、森本厚吉	『リビングストーン』	1901(明治34)年	書籍	ニセコ町・有島記念館
29	有島武郎	フランススのプロフィール	1903(明治36)年	水彩・紙	ニセコ町・有島記念館
30	有島武郎	羅馬古城壁	1920(大正9)年頃	ペン・紙	ニセコ町・有島記念館
31	有島武郎 編集	『松むし』(限定　第285号／400部)	1916(大正5)年	書籍	ニセコ町・有島記念館
32	有島武郎	山本愛子旧蔵『有島武郎著作集』13点	1917-22(大正6-11)年	書籍	ニセコ町・有島記念館
33	有島武郎	爾自身を知れ	1917(大正6)年	墨・和紙(掛軸)	ニセコ町・有島記念館
34	有島武郎	原稿『雜信一束』	1922(大正11)年	原稿23枚	ニセコ町・有島記念館
35	有島武郎	死生事大慎勿放免	1919(大正8)年	墨・和紙(掛軸)	ニセコ町・有島記念館
36	有島武郎	おのが紡む真白きいとの中にして蚕がごとく久にも我は死なま志　武郎	1922(大正11)年	墨・和紙(掛軸)	ニセコ町・有島記念館
37		「東京日日新聞」	1923(大正12)年7月10日	新聞	ニセコ町・有島記念館
38		「サンデー毎日」	1923(大正12)年7月15日	新聞	ニセコ町・有島記念館
39	有島武郎	「有島武郎個人雑誌　泉」最終号	1923(大正12)年	書籍	ニセコ町・有島記念館
40	有島行光 他 親戚一同	兼松芳江・寺田花枝宛会葬礼状	1923(大正12)年	礼状、封筒	ニセコ町・有島記念館
41		小作料約定證書	1908-23(明治41-大正12)年	印刷・和紙(書類)	ニセコ町・有島記念館
42		有島農場事務所　金銭出納日記帳	1908-16(明治41-大正5)年	ペン・西洋紙(帳簿)	ニセコ町・有島記念館
43	有島生馬	羊蹄山-有島農場ニテ	1955(昭和30)年	油彩・板	ニセコ町・有島記念館
44	有島武郎	原稿「農場解放記念碑文案」	1922(大正11)年	原稿2枚	ニセコ町・有島記念館
45	山本勇一	弥照神社内で農場解放を宣言する有島武郎	1970-80年代	油彩・カンヴァス	ニセコ町・有島記念館
46	有島武郎	木田金次郎宛書簡	1923(大正12)年5月8日	書簡、封筒	ニセコ町・有島記念館
47	有島武郎	相互扶助	1922(大正11)年	墨・和紙(額装)	ニセコ町・有島記念館
48		有島農場区画変遷図	1920-50年代	印刷、インク、朱、鉛筆・西洋紙(図面)	ニセコ町・有島記念館
49		免租年期明届扣図	1908-23(明治41-大正12)年	墨、朱・和紙(図面)	ニセコ町・有島記念館
50		有嶋農場灌漑区域并敷地求積図　其一	1923(大正12)年頃	青焼・西洋紙(図面)	ニセコ町・有島記念館
51		有嶋米 荷札	不詳	荷札	ニセコ町・有島記念館
52	有島武郎	花	1923(大正12)年	水彩・紙	ニセコ町・有島記念館

■ 第II章　モデル画家・木田金次郎の歩み

II・i 『生れ出づる悩み』から　1923－1935

53	木田金次郎	岩内郊外	1923(大正12)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
54	木田金次郎	ポプラ	1924(大正13)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
55	木田金次郎	風景	1926(大正15)年	油彩・板	木田金次郎美術館
56	木田金次郎	残雪風景	1927(昭和2)年	油彩・ボード	木田金次郎美術館
57	木田金次郎	大連風景(老虎灘)	1928(昭和3)年	油彩・ボード	個人蔵
58	木田金次郎	朝鮮金剛山	1928(昭和3)年	油彩・カンヴァス	西尾房子氏
59	木田金次郎	バラ	1930(昭和5)年頃	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
60	木田金次郎	夏日風景	1930(昭和5)年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
61	木田金次郎	漁村の夕	1931(昭和6)年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
62	木田金次郎	りんご	1931(昭和6)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
63	木田金次郎	港の未明	1931(昭和6)年	油彩・板	木田金次郎美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
64	木田金次郎	残雪の岩内山	1933(昭和8)年	油彩・板	個人蔵(東京都)
65	木田金次郎	手稲鮎山秋色	1934(昭和9)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
66	木田金次郎	林檎園	1935(昭和10)年	油彩・カンヴァス	個人蔵(岩内町)

II・ii 海に向かって　1936－1953

67	木田金次郎	海	1936(昭和11)年	油彩・カンヴァス	佐藤正広氏
68	木田金次郎	岩内港	1938(昭和13)年	油彩・カンヴァス	個人蔵(岩内町)
69	木田金次郎	十勝岳	1939(昭和14)年	油彩・板	木田金次郎美術館
70	木田金次郎	川畔の漁村	1940(昭和15)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行
71	木田金次郎	海の見える川畔	1941(昭和16)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行
72	木田金次郎	新雪の羊蹄山	1941(昭和16)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
73	木田金次郎	春より初夏にかけて	1942(昭和17)年	油彩・カンヴァス	ニセコ町・有島記念館
74	木田金次郎	風景(ポプラ並木)	1942(昭和17)年	油彩・板	木田金次郎美術館
75	木田金次郎	晩秋	1942(昭和17)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
76	木田金次郎	晩秋	1943(昭和18)年	油彩・板	木田金次郎美術館
77	木田金次郎	ホリカップ風景	1945(昭和20)年頃	油彩・カンヴァス	西尾房子氏
78	木田金次郎	くもれる夏の海	1949(昭和24)年	油彩・板	木田金次郎美術館
79	木田金次郎	森の日没	1950(昭和25)年	油彩・板	木田金次郎美術館
80	木田金次郎	古番屋	1950(昭和25)年頃	油彩・カンヴァス	法人蔵(岩内町)
81	木田金次郎	砂防林	1952(昭和27)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
82	木田金次郎	ホリカップの断崖	1952(昭和27)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
83	木田金次郎	枇杷の図	1953(昭和28)年	油彩・板	木田金次郎美術館
84	木田金次郎	海浜落暉	1953(昭和28)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行
85	木田金次郎	りんご	1954(昭和29)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行

II・iii 岩内大火を経て　1954－1958

86	木田金次郎	大火直後の岩内港	1954(昭和29)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
87	木田金次郎	台風の朝	1954(昭和29)年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
88	木田金次郎	茶津の断崖	1954(昭和29)年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
89	木田金次郎	岩内港	1955(昭和30)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
90	木田金次郎	青い太陽	1955(昭和30)年頃	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
91	木田金次郎	飾り花瓶と花	1955(昭和30)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
92	木田金次郎	半農の漁村	1956(昭和31)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
93	木田金次郎	落暉	1956(昭和31)年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
94	木田金次郎	波	1956(昭和31)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行
95	木田金次郎	菜の花畑	1956(昭和31)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行
96	木田金次郎	牡丹	1956(昭和31)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
97	木田金次郎	ビンノ岬	1957(昭和32)年	油彩・カンヴァス	森田　晋氏
98	木田金次郎	崖	1957(昭和32)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
99	木田金次郎	岩内山	1958(昭和33)年	油彩・カンヴァス	森田　晋氏
100	木田金次郎	波	1958(昭和33)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
101	木田金次郎	茶津の断崖	1958(昭和33)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
102	木田金次郎	落暉	1958(昭和33)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
103	木田金次郎	台風の跡	1958(昭和33)年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
104	木田金次郎	りんご園	1958(昭和33)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行
105	木田金次郎	秋果	1958(昭和33)年	油彩・カンヴァス	森田　晋氏
106	木田金次郎	牡丹	1958(昭和33)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行

II・iv 色線－自然との対峙　1959－1962

107	木田金次郎	疎林融雪	1959(昭和34)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
108	木田金次郎	タンクのある風景	1959(昭和34)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
109	木田金次郎	初雪の朝	1959(昭和34)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
110	木田金次郎	東山からみた早春の岩内山	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
111	木田金次郎	夏の岩内港	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
112	木田金次郎	夏の岩内港	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
113	木田金次郎	漁港と冷蔵庫	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
114	木田金次郎	出漁	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
115	木田金次郎	積丹の漁港	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	北海道銀行
116	木田金次郎	ヘロカラウスの岩	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
117	木田金次郎	ハマナスと放牧	1960(昭和35)年頃	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
118	木田金次郎	海辺の放牧	1960(昭和35)年頃	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
119	木田金次郎	秋のテレビ塔	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	個人蔵(東京都)
120	木田金次郎	ノサップの灯台	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
121	木田金次郎	朝焼けの羊蹄	1960(昭和35)年頃	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
122	木田金次郎	りんご	1960(昭和35)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
123	木田金次郎	バラ(横)	1960(昭和35)年頃	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
124	木田金次郎	漁港と冷蔵庫	1961(昭和36)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
125	木田金次郎	冷蔵庫のある風景	1961(昭和36)年頃	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
126	木田金次郎	雑木林の放牧	1961(昭和36)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
127	木田金次郎	堀株秋景(網を繕う人)	1961(昭和36)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
128	木田金次郎	春のモイワ	1961(昭和36)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館
129	木田金次郎	秋のモイワ	1961(昭和36)年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
130	木田金次郎	バラ(絶筆)	1962(昭和37)年	油彩・カンヴァス	木田金次郎美術館

■ 第Ⅲ章 苦悩と歓喜の画家たち

Ⅲ・i 孤高の画家 渡邊 淳

131	渡邊 淳	岩田専太郎挿絵 模写	1948(昭和23)年	鉛筆、水彩・紙	個人蔵
132	渡邊 淳	足	1955(昭和30)年	木(朴)	個人蔵
133	渡邊 淳	山の人等	1956(昭和31)年頃	クレヨン・紙	府中市美術館
134	渡邊 淳	親父	1960(昭和35)年	水彩、墨・紙	府中市美術館
135	渡邊 淳	炭焼き二人	1960(昭和35)年	クレヨン・セメント袋	府中市美術館
136	渡邊 淳	ランプの詩	1972(昭和47)年	油彩・カンヴァス	府中市美術館
137	渡邊 淳	冬の光景	1980(昭和55)年	油彩・カンヴァス	個人蔵
138	渡邊 淳	あおい想い	1989(平成元)年	油彩・カンヴァス	個人蔵
139	渡邊 淳	谷の村	2000(平成12)年	油彩・紙(色紙)	個人蔵
140	渡邊 淳	佐分利谷	不詳	油彩・カンヴァス	個人蔵
141	渡邊 淳	谷の村	不詳	油彩・カンヴァス	個人蔵
142	渡邊 淳	暮れる	不詳	油彩・カンヴァス	個人蔵
143	渡邊 淳	この谷のこの土を喰いこの風に吹かれて生きたい	不詳	墨、ペン、水彩・紙(色紙)	個人蔵
144	水上 勉	達磨図	1984(昭和59)	墨、水彩・紙	個人蔵
145	水上 勉	魚貝図	1984(昭和59)	墨、水彩・紙	個人蔵

Ⅲ・ii 平成の『生れ出づる悩み』―北海道の若手作家たち

146	吉田麻子	作品群 のぞいてみれば?より 深海魚	2017(平成29)年	鉛筆・紙	作者蔵
147	中村美沙子	sinkaigyo	2008(平成20)年	線描・アクリル絵具・ボールペン・木製パネル	作者蔵
148	松原明季美	Tern on	2018(平成30)年	油彩・カンヴァス	作者蔵
149	後藤寧々	さかな	2018(平成30)年	油彩・カンヴァス	作者蔵
150	吉田小夜子	息をしている	2018(平成30)年	油彩・カンヴァス	作者蔵
151	池田さやか	hands up	2018(平成30)年	顔料・岩絵の具・和紙	作者蔵
152	Ochiro	夢の中に、落ちた君へ。	2018(平成30)年	アクリル・木製パネル・木製木枠	作者蔵
153	唐神知江	冬の景色	2017(平成29)年	アクリル絵具・カンヴァス	作者蔵
154	今野沙紀	天使の足のふむところ…(金子みすゞ詩より)	2018(平成30)年	墨・紙	作者蔵
155	松崎祐哉	SUSUKINO・ただただそこにいるだけで	2018(平成30)年	アクリル・油彩・カンヴァス	作者蔵
156	伊藤恵里	海辺の原野	2018(平成30)年	油彩・パステル・クレヨン・白亜地・パネル・綿布	作者蔵
157	カウタツヤ	つま先	2018(平成30)年	グリザイユ・ハッチング・アクリル絵の具・カンヴァス	作者蔵
158	浜地 彩	ひかりの旋律	2018(平成30)年	油彩・カンヴァス	作者蔵
159	石垣 渉	早起きの防風林	2017(平成29)年	透明水彩・不透明水彩・水彩紙	作者蔵
160	駒澤千波	Rain forest	2018(平成30)年	岩絵の具・綿布	作者蔵
161	櫻井 亮	でっち	2013(平成25)年	ベニヤ・紙・アクリル画	作者蔵
162	佐藤仁敬	アオキココロザシ	2018(平成30)年	油彩・カンヴァス	作者蔵
163	新見亜矢子	Salem	2018(平成30)年	油彩・カンヴァス	作者蔵
164	向中野るみ子	過ぎゆく時	2018(平成30)年	アクリル・カンヴァス	作者蔵
165	安田祐子	肩にのこる声	2018(平成30)年	油彩・カンヴァス	作者蔵

3. へそまがり日本美術 禅画からヘタウマまで

〔平成31年3月16日ー令和元年5月12日〕

開催主旨：

日本では、古くから「見事な」造形作品が生み出されてきた。その一方で、人の感じ方にはまた、「へそまがり」とも言えるような一面があることも否めない。決してきれいとは言えないものに魅力を感じたり、完璧ではない、不格好なものや不完全なものになぜ心惹かれたりすることが、誰にでもあるはずだ。日本の美術史には、そんな「へそまがり」とでも呼びたくなるような感性が生み出してきた数々の絵画がある。

寒山拾得図のように不可解さで見る者を引きつける禅画、技巧を否定し「抜いた」描き方が味わいとなっている俳画、あえて朴訥に描くことを率直な心の表現とする南画。あるいは、江戸後期の禅僧、仙厓の絵は、立派なものを否定し飛び越える痛快さを、見る者の心に与える。更に近代には、昭和初めの岸田劉生周辺の画家たちのように、子供が描いた絵や江戸時代の泥絵を模範とし、「素朴」にのめり込む人々もいた。

本展覧会では、中世の禅画から現代のヘタウマまで、日本の美術史上に点在する「へそまがりの感性」の所産をご紹介します。きれいなもの、立派なものだけではなく、日本美術のもう一つの何かが姿を現す展覧会となった。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）

＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

138点

入場者数：

45,731名（開催日数：51日間、1日平均897名）

印刷物：

〔カタログ〕B24取判248頁 〔ポスター〕B2判

〔チラシ〕A4判二つ折4頁

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

金子信久（当館学芸員）、毎週日曜日、講座室（1,186名）

〔展覧会講座「へそまがり日本美術ー「ゆるさ」から「苦さ」まで」〕

金子信久（当館学芸員）、3月30日、講座室（122名）、4月27日、市民ギャラリー（185名）

〔子ども向けイベント「へそまがり探検隊!」〕

会期中随時（35,881名）

関連記事：

森本末紀 「家光、画伯だった」 朝日新聞 2018年12月20日

杉垣裕子 「トレンド へたっぴが愛らしい」 日経MJ 2019年1月11日

行武知子 「現代のヘタウマまで続くB面日本美術史」

『日経おとなのOFF No.216』2019年4月号

八木みどり 「気になる『へそまがり』作品」 朝日小学生新聞

2019年3月15日

山田由佳 「この人のスケジュール表」『週刊文春』 3月21日号

「AND×DO」 大分合同新聞 2019年3月26日

宮川匡司 「画家の遊び心 伝統逆手に」 日本経済新聞

2019年3月27日

森本末紀 「美の履歴書595 心が和んでしまうのは『涅槃図』 風外本高」 朝日新聞 2019年4月9日

森本末紀 「家光・家綱が描く将軍の『鶏』で候」 朝日新聞

2019年4月9日

石川健次 「Art Scene」『サンデー毎日』 2019年4月14日号

絲山秋子 「読んでよし 積んでよし」『女性自身』 2019年4月16日号

「美術話題 『ヘタウマ』徳川将軍」 琉球新報 2019年4月19日

「徳川家光、家綱の墨画 異彩放つ“ヘタウマ”鶏図」 新潟日報

2019年4月20日

「ぶんか 徳川将軍の“ヘタウマ”墨画」 大阪日日新聞

2019年4月21日

「文化 徳川将軍『ヘタウマ』墨画」 茨城新聞 2019年4月22日

「文化 『ヘタウマ』な鶏図 作者は家光・家綱」 秋田さきがけ

2019年4月23日

「文化 ヘタウマ?素朴?徳川将軍の墨画」 河北新報 2019年4月23日

「文化 徳川将軍の『ヘタウマ』墨画」 山陰中央新聞

2019年4月23日

「徳川将軍の“ヘタウマ”墨画」 日本海新聞 2019年4月25日

「将軍の“ヘタウマ”墨画」 南日本新聞 2019年4月26日

「上様はヘタウマ?徳川将軍の墨画公開」 愛媛新聞 2019年4月26日

「徳川将軍のヘタウマ墨画」 高知新聞 2019年4月26日

「文化 徳川将軍描いた『ヘタウマ』墨画」 宮崎日日新聞

2019年4月27日

芥川喜好 「時の余白に 『へそまがりの豊かな水脈』」 読売新聞

2019年4月27日

「徳川将軍のヘタウマ墨画」 伊勢新聞 2019年4月28日

金子信久 「コラム壱 上様の趣味はお絵描き?」

『日経おとなのOFF No.217』 2019年5月号

知井恵理 「クロワッサンカルチャークラブ EXHIBITION」

『クロワッサン』 2019年5月10日号

岡本奇太郎 「芸術超人カタログ 第92回 へそまがり日本美術」

『小説推理』 2019年6月号

『ART COLLECTION + DESIGN』140号 2019年5月1日発行

山下裕二 「山下裕二のこれが欲しい! vol.123 村山槐多『スキと人』」

『アートコレクターズ』 2019年6月号

「特集ゆるかわアート万博」『芸術新潮』 2019年8月号

大西若人 「回顧2019美術」 朝日新聞夕刊 2019年12月17日

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	雪村周継	あくび布袋・紅梅・白梅図	室町時代(16世紀)	紙本墨画	茨城県立歴史館
2	雪村周継	竹虎図	室町時代(16世紀)	紙本墨画	個人蔵
3	雪村周継	布袋唐子図	室町時代(16世紀)	紙本墨画	茨城県立歴史館
4	雪村周継	布袋唐子図	室町時代(16世紀)	紙本墨画	個人蔵
5	雪村周継	寒山図	室町時代(16世紀)	紙本墨画	栃木県立博物館
6	啓牧	寒山拾得図	室町時代(16世紀)	紙本墨画	栃木県立博物館
7	以天宗清	寒山拾得図	室町時代(16世紀)	紙本墨画	個人蔵
8	伊年印	寒山図	寛永9(1632)年	紙本墨画	個人蔵
9	松花堂昭乗	布袋図	江戸時代前期(17世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
10	狩野山雪	松に小禽・梟図	江戸時代前期(17世紀)	紙本墨画	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
11	海北友雪	雲竜図襖	寛永11(1963)年	紙本墨画	麟祥院(京都市)
12	白隠慧鶴	維摩像	宝暦5(1755)年	紙本墨画	大阪中之島美術館
13	白隠慧鶴	蛤蜊観音図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	早稲田大学會津八一記念博物館
14	白隠慧鶴	布袋図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
15	白隠慧鶴	すたすた坊主図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
16	白隠慧鶴	関羽図	宝暦3(1753)年	紙本墨画	個人蔵
17	東嶺円慈	茶柄杓図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	早稲田大学會津八一記念博物館
18	東嶺円慈	禅経達磨之尊像	天明元(1781)年	紙本墨画	個人蔵
19	福原五岳	面壁達磨図	天明3(1783)年	絹本墨画	個人蔵
20	春叢紹珠	達磨図	天保6(1835)年	紙本墨画	早稲田大学會津八一記念博物館
21	春叢紹珠	三番叟図	天保元(1830)年	紙本墨画	早稲田大学會津八一記念博物館
22	春叢紹珠	皿回し布袋図	江戸時代中期－後期 (18世紀後半－19世紀初め)	紙本墨画	個人蔵
23	惟精宗磬	断臂図	大正11(1922)年	紙本墨画	早稲田大学會津八一記念博物館
24	風外本高	暴風猛虎の図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画淡彩	香積寺(豊田市)
25	風外本高	新春賀偈	天保13(1842)年	紙本墨画	香積寺(豊田市)
26	風外本高	仙人図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画淡彩	豊田市郷土資料館
27	風外本高	南泉斬猫図	天保6(1835)年	紙本墨画淡彩	香積寺(豊田市)
28	風外本高	涅槃図	天保6(1836)年	紙本墨画淡彩	個人蔵
29	仙厓義梵	十六羅漢図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
30	仙厓義梵	布袋図	文政元(1818)年	紙本墨画	個人蔵
31	仙厓義梵	竹虎図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
32	仙厓義梵	柳に牛図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
33	仙厓義梵	牛図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
34	仙厓義梵	老子図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
35	仙厓義梵	丹霞焼仏図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
36	仙厓義梵	神農図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
37	仙厓義梵	豊干禪師・寒山拾得図屏風	文政5(1822)年	紙本墨画	幻住庵(福岡市)
38	仙厓義梵	小蔵梅花図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	幻住庵(福岡市)
39	仙厓義梵	蜺子和尚図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	幻住庵(福岡市)
40	長沢蘆雪	寒山拾得図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
41	長沢蘆雪	狗子図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
42	円山応挙	時雨狗子図	明和4(1767)年	絹本墨画淡彩	府中市美術館
43	円山応挙	子犬図	天明4(1784)年	紙本墨画淡彩	個人蔵
44	長沢蘆雪	菊花子犬図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
45	小林一茶	「苦の娑婆や」自画賛	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
46	呉春	人物図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本着色	福島美術館
47	遠藤曰人	猫児図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	仙台市博物館
48	遠藤曰人	蛙の相撲図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画淡彩	仙台市博物館
49	遠藤曰人	「杉苗や」句自画賛	天保6(1853)年	紙本墨画淡彩	福島美術館
50	遠藤曰人	ぼんぼこ祭図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本着色	仙台市博物館
51	池大雅	怪鬼彈琴図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
52	与謝蕪村	白箸翁図	天明元(1781)年	紙本墨画淡彩	逸翁美術館
53	岡田米山人	寿老人図	文化8(1811)年	絹本着色	個人蔵
54	円山応挙	寿老人図	天明5(1785)年	絹本着色	個人蔵
55	岡田米山人	幽客煎茶図	文政元(1818)年	絹本着色	大阪歴史博物館
56	亀田鵬斎	山水図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
57	円山応挙	山水図	天明元(1781)年	絹本墨画淡彩	個人蔵
58	佐竹蓬平	山水図	江戸時代中期－後期 (18世紀後半－19世紀初め)	絹本着色	個人蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
59	佐竹蓬平	山水図	江戸時代中期－後期 (18世紀後半－19世紀初め)	絹本着色	個人蔵
60	彭城百川	初午図	延享4(1747)年	紙本着色	個人蔵
61	富田溪仙	沈伽・容膝	大正2(1913)年	紙本墨画淡彩	福岡県立美術館
62	富田溪仙	牡丹唐獅子図	大正－昭和時代(20世紀前半)	紙本着色	福岡県立美術館
63	富田溪仙	石峰寺	大正元(1912)年頃	紙本墨画淡彩	京都国立近代美術館
64	小川芋銭	山色新	昭和3(1928)年	絹本墨画金泥	茨城県近代美術館
65	小川芋銭	〈河童百図〉幻	昭和12(1937)年	紙本墨画	茨城県近代美術館
66	夏目漱石	柳下騎驢図	大正時代前半頃(1912-16)年	絹本着色	個人蔵
67	伊藤若冲	伏見人形図	寛政10(1798)年	紙本着色	個人蔵
68	伊藤若冲	伏見人形図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本着色	個人蔵
69	忍頂寺静村	坂田金時図	明治4(1871)年	○本着色	個人蔵
70	歌川国芳	荷宝蔵壁のむだ書	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本木版	個人蔵
71	歌川国芳	荷宝蔵壁のむだ書	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本木版	個人蔵
72	アンリ・ルソー	ブリュマンس・ピッシュの肖像	1893(明治26)年	キャンバス、油彩	世田谷美術館
73	三岸好太郎	友人ノ肖像	大正13(1924)年	キャンバス、油彩	北海道立三岸好太郎美術館
74	三岸好太郎	二人人物	大正12(1923)年頃	キャンバス、油彩	北海道立三岸好太郎美術館
75	倉田三郎	正子像	大正12(1923)年	キャンバスボード、油彩	府中市美術館
76	倉田三郎	果実図	大正11(1922)年	板、油彩	府中市美術館
77	糸井重里原作・湯村輝彦画	『情熱のベンギンごはん』	昭和55(1980)年	書籍	個人蔵
78	湯村輝彦	『SURVIVAL』(STAGE 8)表紙	昭和57(1982)年	書籍	個人蔵
79	湯村輝彦	『テリー百分百』	昭和56(1981)年	書籍	個人蔵
80	テリー・ジョンソン (湯村輝彦)	『ヘタウま略画・図案辞典』	昭和61(1986)年	書籍	個人蔵
81	湯村輝彦	『湯村輝彦ヒットパレード』	昭和56(1981)年	書籍	個人蔵
82	相馬公平著・湯村輝彦画	『ハゲハゲライフ』	平成11(1999)年	書籍	個人蔵
83	蛭子能収	「骨正月」 (『なんとなくピンピン』青林堂所収)	昭和58(1983)年	書籍	個人蔵
84	徳川家光	木兔図	江戸時代前期(17世紀前半)	紙本墨画	養源寺(東京都文京区)
85	徳川家光	兔図	江戸時代前期(17世紀前半)	紙本墨画	個人蔵
86	徳川家光	鳳凰図	江戸時代前期(17世紀前半)	紙本墨画	徳川記念財団
87	伝 呂健	百鳥図	明時代(16世紀)	絹本着色	個人蔵
88	徳川家綱	鶏図	江戸時代前期(17世紀後半)	紙本着色	個人蔵
89	徳川家綱	闘鶏図	江戸時代前期(17世紀後半)	紙本墨画	徳川記念財団
90	徳川家綱	親鶏雛図	江戸時代前期(17世紀後半)	紙本墨画淡彩	徳川記念財団
91	徳川家綱	团扇歌仙中納言兼輔像	江戸時代前期(17世紀後半)	紙本着色	徳川記念財団
92	伊達綱村	嶺鉢図	江戸時代前期－中期 (17世紀後半－18世紀前半)	絹本墨画	仙台市博物館
93	伊達綱村	日輪図	江戸時代前期－中期 (17世紀後半－18世紀前半)	絹本着色	仙台市博物館
94	伊達綱村	蓮図	江戸時代前期－中期 (17世紀後半－18世紀前半)	絹本墨画	仙台市博物館
95	黒田綱政	鶴鶴図	江戸時代前期－中期 (17世紀後半－18世紀前半)	紙本墨画	福岡市博物館
96	稲葉弘通	鶴図	文化8(1811)年	絹本着色	個人蔵
97	伊藤若冲	鯉図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
98	伊藤若冲	福祿寿図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
99	伊年印	鉄拐仙人図	江戸時代前期(17世紀後半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
100	尾形乾山	松図	元文5(1740)年	紙本墨画	個人蔵
101	中村芳中	十二月花卉図押絵貼屏風	江戸時代中期－後期 (18世紀後半－19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
102	望月玉蟾	竜図	江戸時代中期(18世紀)	紙本墨画	個人蔵
103	長沢蘆雪	郭子儀図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵(府中市美術館寄託)
104	岸礼	百福図	明治6(1873)年	紙本墨画淡彩	敦賀市立博物館
105	狩野典信	唐獅子図屏風	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	仙台市博物館
106	山村耕花	獅子	大正－昭和時代(20世紀前半)	絹本着色	個人蔵
107	村山槐多	スキと人	大正3(1914)年	紙本墨画	府中市美術館
108	児島善三郎	松	昭和13(1938)年頃	キャンバス、油彩	個人蔵
109	小出楯重	めでたき風景	昭和元(1926)年	紙本着色	大阪中之島美術館
110	岸駒	寒山拾得図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
111	与謝蕪村	寒山拾得図	宝暦8(1758)年	絹本墨画淡彩	個人蔵
112	与謝蕪村	寒山拾得図	安永7(1778)年	紙本着色	個人蔵
113	田谷芝斎	寒山拾得図	江戸時代後期(19世紀)	絹本墨画	栃木県立博物館
114	狩野永朝	大黒天図	元治元(1864)年	紙本墨画淡彩	個人蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
115	与謝蕪村	寿老人図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
116	青木夙夜	南極老人図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
117	長沢蘆雪	猿猴弄柿図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
118	長沢蘆雪	鶏図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
119	祇園井特	紫女図	江戸時代中期～後期 (18世紀後半～19世紀前半)	紙本着色	個人蔵
120	祇園井特	美人図	江戸時代中期～後期 (18世紀後半～19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
121	祇園井特	お菊幽霊図	江戸時代中期～後期 (18世紀後半～19世紀前半)	紙本着色	福岡市博物館
122	祇園井特	墓場の幽霊図	江戸時代中期～後期 (18世紀後半～19世紀前半)	紙本着色	福岡市博物館
123	祇園井特	達磨図	江戸時代中期～後期 (18世紀後半～19世紀前半)	紙本着色	奈良県立美術館
124	長沢蘆雪	老子図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	敦賀市立博物館
125	石崎融思	唐人物図	江戸時代中期～後期 (18世紀後半～19世紀前半)	絹本着色	個人蔵
126	曾我蕭白	後醍醐天皇笠置潜逃図	江戸時代中期(18世紀)	紙本着色	個人蔵
127	林繚苑	鹿図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	大阪歴史博物館
128	曾我二直庵	猿図	江戸時代前期(17世紀)	紙本墨画	個人蔵
129	鳥城	雪兎図	江戸時代	紙本着色	奈良県立美術館
130	酒井抱一	布袋図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画淡彩	個人蔵
131	中村芳中	鬼の念仏図	江戸時代中期～後期 (18世紀後半～19世紀前半)	紙本着色	個人蔵
132	長沢蘆雪	郝大通図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
133	明誉古磻	七福神図	江戸時代前期～中期 (17世紀後半～18世紀前半)	紙本墨画	奈良県立美術館
134	長沢蘆雪	なめくじ図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	個人蔵
135	長沢蘆雪	蛸と蓮華図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本着色	個人蔵
136	萬鉄五郎	仁丹とガス灯	大正元(1912)年	板、油彩	岩手県立美術館
137	萬鉄五郎	日の出	大正8(1919)年	紙本着色	萬鉄五郎記念美術館
138	萬鉄五郎	軽業師	大正元(1912)年頃	板、油彩	萬鉄五郎記念美術館

4. 府中市制施行65周年記念 棟方志功展

〔令和元年5月25日ー7月7日〕

開催主旨：

1903（明治36）年青森に生まれた棟方志功は、画家を目指して上京、しかしその後、自らにより適した表現として木版画の制作に力を注いでいく。

1936（昭和11）年には《大和し美し》を発表して注目を集め、その後は美術家や宗教家、文学者との交友を通じて、独自の作品世界を深めていった。さらに戦後になると、数多くの海外展に出品を重ね、1956年の第28回ヴェネツィア・ビエンナーレでは、版画部門の大賞を受賞。日本を代表する美術家として不動の評価を獲得した。

棟方志功は自らの木版画を「板画」、すなわち板の中から生まれた絵画と称した。この展覧会では、棟方芸術の真髄ともいえる板画作品の全貌を、青森市の一般財団法人棟方志功記念館の所蔵作品によってたどった。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

協力：

一般財団法人 棟方志功記念館

出品点数：

24点

入場者数：

15,276名（開催日数：38日間、1日平均402名）

印刷物：

〔カタログ〕A 4横判80頁 〔ポスター〕B2判 〔チラシ〕A4判

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

鎌田享（当館学芸員）、5月26日・6月2日・8日・16日・30日・7月6日、講座室（526名）

〔展覧会講座「棟方志功 板画の軌跡」〕

鎌田享（当館学芸員）、6月22日、講座室（121名）

〔子ども向けイベント「棟方志功探検隊」〕

会期中随時（8,222名）

関連記事：

アライ=ヒロユキ 「権威無用 民衆の心を彫る」 しんぶん赤旗

2019年6月26日

後藤護 「没後44年の棟方志功に出逢う」 南信州新聞

2020年1月8日

出品作品

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横)	装丁
1	版画集 星座の花嫁	1928-30(昭和3-5)年 1931(昭和6)年刊行	木版(多色摺)、紙	6.2×8.6cm 他	額(2面)
	-1 〈蔵書票〉		-2 〈貴女等・聖堂を出ずる〉		
	-3 〈ベチレヘムに聖星を観る〉		-4 〈星座の絵〉		
	-5 〈聖堂に並ぶ三人貴女〉		-6 〈貴夫人与蝶々〉		
	-7 〈花か蝶々か〉		-8 〈貴女等・箒星を観る〉		
	-9 〈貴女・裳を引く〉		-10 〈貴女行路〉		
2	亀田・長谷川邸の内園	1932(昭和7)年	木版(多色摺)、紙	19.5×23.2cm	額(1面)
3	亀田・長谷川邸の裏庭	1932(昭和7)年	木版(多色摺)、紙	18.1×21.0cm	額(1面)
4	十和田・奥入瀬C	1932(昭和7)年	木版(墨摺)、彩色、紙	12.0×16.0cm	額(1面)
5	ヴェニウス生誕	1934(昭和9)年	コロタイプ、紙	各21.0×15.5cm	折本(1冊)
	-1 〈表〉		-2 〈飛行絨緞〉		
	-3 〈ヴェニウス生誕〉		-4 〈乳房〉		
	-5 〈或る数字〉		-6 〈かの女の帯〉		
	-7 〈ダンテルの渚〉		-8 〈溺死〉		
	-9 〈裏〉				
6	大和し美し	1936(昭和11)年	木版(墨摺)、紙	26.5×33.2cm 他	卷子(1巻)
	-1 〈表題の柵〉		-2 〈はじまりの柵〉		
	-3 〈故郷の柵〉		-4 〈射損の柵〉		
	-5 〈白猪の柵〉		-6 〈美夜受の柵〉		
	-7 〈百合肌の柵〉		-8 〈剣の柵〉		
	-9 〈矢燕の柵〉		-10 〈弟橘の柵〉		
	-11 〈鷺群の柵〉		-12 〈焰の柵〉		
	-13 〈倭建命の柵〉		-14 〈乱髪 of 柵〉		
	-15 〈髪香の柵〉		-16 〈藻草の柵〉		

5. ばれたん ゆめのせかい

〔令和元年7月20日－9月1日〕

開催主旨：

絵の国の妖精ばれたんとむら田の案内で府中市美術館の所蔵品を楽しむ展覧会。シリーズ9回目の本展のテーマは「ゆめ」。「絵の国 ゆめ美術館」「ふしぎなせかい こわいせかい」「キラキラ万華鏡」「お空のメリーゴーランド」のコーナーを設けた。ロビーには、ぬり絵や折り紙を楽しむ工作コーナー、ばれたん工作の展示コーナーを設置した。

観覧料：

一般400円（320円）、高校生・大学生200円（160円）、小学生・中学生70円（50円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

出品点数：

15点

入場者数：

11,153名（開催日数：38日間、1日平均294名）

印刷物：

〔パンフレット〕B5横判16頁 〔ポスター〕B2判 〔チラシ〕A4判

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	富田有紀子	723	2005(平成17)年	キャンバス、油彩	府中市美術館
2	司馬江漢	生花園	江戸時代後期	絹本着色、一幅	府中市美術館
3	曾谷朝絵	Door	2003(平成15)年	キャンバス、油彩	府中市美術館
4	牛島憲之	灯台のある島	1984(昭和59)年	キャンバス、油彩	府中市美術館
5	松本英一郎	さくら・うし	1993(平成5)年	キャンバス、油彩	府中市美術館
6	川口起美雄	雨降り天使		板、油彩、テンペラ	府中市美術館
7	山本麻友香	Blue Pond	2004(平成16)年	キャンバス、油彩	府中市美術館
8	山口啓介	王の方舟	1998(昭和63)年	紙、銅版	府中市美術館
9	池田龍雄	ユークリッド	1959(昭和34)年	紙、インク、油彩、水彩	府中市美術館
10	池田龍雄	装甲虫	1956(昭和31)年	紙、インク、油彩、水彩	府中市美術館
11	藤田修	Abbey	1996(平成8)年	紙、フォトエッチング	府中市美術館
12	高森明	カスベ遊歩	1971(昭和46)年	キャンバス、油彩	府中市美術館
13	元田久治	Ginza 4-chome Intersection	2005(平成17)年	紙、石版	府中市美術館
14	鶴岡政男	夜の幻想	1964(昭和39)年頃	キャンバス、油彩	府中市美術館
15	植竹邦良	シェル記・卵殻・	1979(昭和54)年	キャンバス、油彩	府中市美術館

6. 府中市制施行65周年記念 おかえり「美しき明治」

〔令和元年9月14日－12月1日〕

※10月12日は台風のため臨時休館

開催主旨：

明治初年に日本を訪れた外国人旅行者は日本のすばらしさに驚嘆の声をあげた。日本の紀行文が出版されると、次いで彩り豊かな日本を本国に伝えようと優れた外国人画家が来日した。彼らは東海道や日光をはじめ、日本各地を、明るく、みずみずしく、そして感動をもって水彩画や油彩画に描いた。チャールズ・ワーグマン、アルフレッド・パーソンズ、アルフレッド・イースト、ジョン・ヴァーレー・ジュニア、モーティマ・メンベスなどの来日画家たちは皆ターナー以来の高い水準を誇る英国の画家であった。そしてこうした英国式水彩画は、三宅克己、大下 藤次郎、吉田博ら日本の青年画家たちにも大きな影響を与えることとなった。

英国人画家と日本人画家によって描かれた明治期の日本を描いた作品は、国内のみならず海外においても今日まで大切に保管され、その一部が近年日本に里帰りしてくるようになり、その様相が次第に明らかとなりつつある。

本展では、これまでまとめて紹介されることのなかった日英の画家たちが描いた素晴らしい日本の風景を平明なテーマに分け、あわせて当時の写真や、旅行記も交え、常設展示室も利用し拡大展示した。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）＊（ ）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館、日本経済新聞社

後援：

ブリティッシュ・カウンシル

特別協力：

京都国立近代美術館、郡山市立美術館、小杉放菴記念日光美術館、横浜美術館

出品点数：

294点

入場者数：

17,208名

（開催日数：67日間、1日平均257名）

印刷物：

〔カタログ〕B5判240頁 〔ポスター〕B2判 〔チラシ〕A4判二つ折4頁

関連イベント：

〔30分スライドトーク〕

志賀秀孝（当館副館長補佐）、9月21日・28日・10月5日・13日・11月2日・16日・23日・30日、講座室（334名）

〔展覧会関連講演会「帰ってきた日本の美」〕

高階秀爾（大原美術館館長）、9月15日、市民ギャラリー（110名）

〔展覧会関連講演会「花の画家 アルフレッド・パーソンズについて」〕

金子孝吉（滋賀大学副学長）、10月19日、講座室（66名）

〔展覧会関連講演会「明治期における日英画家の交流について」〕

山梨絵美子（東京文化財研究所副所長）、10月26日、講座室（52名）

〔展覧会関連講演会「おかえり『美しき明治』」〕

志賀秀孝（当館副館長補佐）、11月3日、講座室（68名）

〔学芸員によるクロストーク〕

泰井良（静岡県立美術館上席学芸員）、佐藤聡史（丸山晩霞記念館学芸員）、志賀秀孝（当館副館長補佐）、11月10日、講座室（50名）

〔現地探訪会「そうね!日光に行こう!」〕

迫内祐司（小杉放菴記念日光美術館学芸員）、当館学芸員、11月15日、小杉放菴記念日光美術館、神橋、東照宮など（10名）

〔コラボ企画 岡原真弓コンサート 明治の唱歌から今に受け継がれる歌〕岡原真弓、11月16日、講座室（55名）

関連記事：

「文化 美術話題 絵画の『日英交流』を追う」 徳島新聞

2019年10月1日

「文化 絵画の日英交流を追う」 四國新聞 2019年10月3日

「ぶんか 絵画の日英交流を追う」 日本海新聞 2019年10月3日

「絵画の日英交流を追う」 日本海新聞 2019年10月3日

「文化 絵画の日英交流を追う」 新潟日報 2019年10月3日

「文化 戻る名画 明治の息吹」 岩手日報 2019年10月3日

「絵画の日英交流を追う」 東奥日報 2019年10月3日

宮川匡司「近代生きた人々の姿 活写 おかえり『美しき明治』展」

日本経済新聞 2019年10月5日

「学芸 絵画の日英交流を追う」 伊勢新聞 2019年10月6日

「文化・芸術 絵画の日英交流を追う」 静岡新聞 2019年10月7日

「学芸 絵画の日英交流を追う」 高知新聞 2019年10月7日

「文化 美術話題 絵画の日英交流を追う」 琉球新報

2019年10月9日

「文化 絵画の日英交流を追う」 秋田さきがけ 2019年10月11日

「文化 絵画の日英交流を追う」 長崎新聞 2019年10月11日

「美術 ミュージアム 絵画の日英交流を追う」 京都新聞

2019年10月12日

「文化 絵画の日英交流を追う」 茨城新聞 2010年10月20日

「英画家残した日本の風景」 山陰中央新報 2019年10月21日

坪内祐三「坪内祐三の美術批評『眼は行動する』no.339」 『週刊ポスト』

2019年10月21日

「絵画の日英交流を追う」 宮崎日日新聞 2019年10月24日

「絵画の日英交流を追う」 南日本新聞 2019年11月2日

山田俊二「首都圏アートナビ」 埼玉新聞 2019年11月5日

「文化 絵画の日英交流 追う」 熊本日日新聞 2019年11月8日

大西若人「美の履歴書625 働く姿なぜ油彩画風に『花を摘む少女』

笠木治郎吉」 朝日新聞夕刊 2019年11月12日

「文化 絵画の日英交流追う」 河北新報 2019年11月14日

大西若人「回顧2019美術」 朝日新聞夕刊 2019年12月17日

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	塚原琢哉	長老の農夫は鋏を振るい、下栗の土に新鮮な空気を鋤き込む	1958(昭和33)年	写真 (インクジェット、紙)	ストライプハウスギャラリー
2	塚原琢哉	子守をしなから、索道をかける仕事を手伝って綱をひくお爺	1958(昭和33)年	写真 (インクジェット、紙)	ストライプハウスギャラリー
3	塚原琢哉	子供は未来の宝である。丸々と太った子供たちを見ていると、自然に囲まれて生きる人々の平和な日常が見えてくる	1958(昭和33)年	写真 (インクジェット、紙)	ストライプハウスギャラリー
4	塚原琢哉	斜面だらけの下栗で自転車に乗る少年。少年はお母のお使いの途中、山に咲くツツジを家に持ち帰る	1958(昭和33)年	写真 (インクジェット、紙)	ストライプハウスギャラリー
5	塚原琢哉	下栗の女性はとてもおしゃれ。若いお母も上町からの帰り道。上町は城下町の飯田にも通じ、新しい時代の情報が溢れていた	1958(昭和33)年	写真 (インクジェット、紙)	ストライプハウスギャラリー
6	塚原琢哉	囲炉裏端の側でお婆に甘える孫娘。自在鉤(じざいかぎ)に吊したヤカンから湯気が立ち上る	1958(昭和33)年	写真 (インクジェット、紙)	ストライプハウスギャラリー
7	塚原琢哉	畑を繋ぐ細い道と、狭い家の周りが子供たちの遊び場だ	1958(昭和33)年	写真 (インクジェット、紙)	ストライプハウスギャラリー
8	笠木治郎吉	帰狼	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	府中市美術館
9	笠木治郎吉	老いた猟師	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
10	笠木治郎吉	休息する樵	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
11	笠木治郎吉	獲物を手にする猟師	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
12	笠木治郎吉	漁師の一家	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
13	笠木治郎吉	綱を繚う女	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
14	笠木治郎吉	ホラ貝を吹く漁師の娘	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
15	笠木治郎吉	蓮池	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
16	笠木治郎吉	漁師の娘	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
17	笠木治郎吉	女筏師	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
18	笠木治郎吉	下校の子供たち	1909(明治42)年	水彩、紙	星野画廊
19	笠木治郎吉	花売り娘	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
20	笠木治郎吉	花を摘む少女	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	星野画廊
21	徳川慶喜	風景	1868-1877(明治元-10)年頃	油彩、紙	静岡県立美術館
22	松本民治	東都今戸橋乃夜景	1878(明治10)年頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
23	吉益耳童	翁面	制作年不詳	油彩、板	府中市美術館
24	久保田米僊	豊穣歎喜之図	1889-95(明治22-28)年頃	絹本着彩	星野画廊
25	五姓田芳柳(初代)	須藤輝長像	1879(明治12)年	絹本着彩	府中市美術館
26	五姓田芳柳(二世)	農村のまひる	1868-82(明治元-15)年頃	絹本着彩	星野画廊
27	渡辺幽香	白衣婦人像(仮題)	1883(明治16)年	絹本着彩	横浜美術館
28	高橋由一	墨水桜花輝耀の景	1874(明治7)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
29	印藤真楯	夜桜	1897(明治30)年	油彩、キャンバス	京都国立近代美術館
30	五姓田義松	横浜伊勢佐木町芋酒屋店先にて	1895(明治28)年頃	油彩、キャンバス	福富太郎コレクション資料室
31	松井昇	月下漁舟	1883-97(明治16-30)年頃	油彩、キャンバス	個人蔵
32	チャールズ・ワグマン	西洋紳士スケッチの図	1870-79(明治3-12)年頃	油彩、スケッチボード	郡山市立美術館
33	チャールズ・ワグマン	幕兵夜営	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
34	チャールズ・ワグマン	日本の侍(侍たち)	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
35	チャールズ・ワグマン	生麦事件	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
36	チャールズ・ワグマン	善光寺風景	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
37	チャールズ・ワグマン	武士	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
38	チャールズ・ワグマン	群集	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
39	チャールズ・ワグマン	横浜大火	1866(慶応2)年	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
40	チャールズ・ワグマン	火事場後始末	1866(慶応2)年頃	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
41	チャールズ・ワグマン	横浜商館両替所	制作年不詳	墨・水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
42	チャールズ・ワグマン	茶屋の娘	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
43	チャールズ・ワグマン	三味線を持つ女	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
44	チャールズ・ワグマン	傘を手にする女(日本の女)	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
45	チャールズ・ワグマン	富士を背にした娘	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
46	チャールズ・ワグマン	女性 横浜	1867(慶応3)年	水彩、紙	静岡県立美術館
47	チャールズ・ワグマン	三味線を弾く女	1868-1891(明治元-24)年頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
48	チャールズ・ワグマン	欄干に寄る女	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
49	チャールズ・ワグマン	休憩	制作年不詳	鉛筆、紙	福富太郎コレクション資料室
50	チャールズ・ワグマン	街道風景	1868-1891(明治元-24)年頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
51	チャールズ・ワグマン	富士遠望図	1867-90(慶応3-明治23)年頃	油彩、キャンバス	静岡県立美術館
52	アントニオ・フォンタネージ	風景	1876-78(明治9-11)年頃	油彩、キャンバス	府中市美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
53	浅井忠	収穫	1893(明治26)年	油彩、紙・板	郡山市立美術館
54	小山正太郎	猿橋	制作年不詳	鉛筆、紙	府中市美術館
55	諫山麗吉	甲州猿橋	制作年不詳	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
56	鹿子木孟郎	北多摩郡府中駅	1893(明治26)年	鉛筆、紙	府中市美術館
57	鹿子木孟郎	府中 鶏争穀	1893(明治26)年	鉛筆、紙	府中市美術館
58	鹿子木孟郎	綾瀬	1893(明治26)年	鉛筆、紙	府中市美術館
59	丸山晚霞	藤沢	1898(明治31)年	鉛筆・淡彩、紙	府中市美術館
60	鹿子木孟郎	水汲み	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
61	鹿子木孟郎	根津権現	18948(明治27)年	水彩、紙	府中市美術館
62	鹿子木孟郎	赤羽風景	1894(明治27)年	木炭・淡彩、紙	府中市美術館
63	鹿子木孟郎	横向きの男	1893(明治26)年	木炭、紙	府中市美術館
64	鹿子木孟郎	娘	制作年不詳	木炭、紙	福富太郎コレクション資料室
65	鹿子木孟郎	日本髪の裸婦	1898(明治31)年頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
66	伊藤快彦	子供像	制作年不詳	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
67	佐久間文吾	団扇をもつ少女	1888(明治21)年	油彩、キャンバス	星野画廊
68	石川寅治	老武者	1895(明治28)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
69	和田英作	平田元貞像・しゅう像	1906(明治39)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
70	本多錦吉郎	景色	1898(明治31)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
71	丸山晚霞	舟	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
72	満谷国四郎	舟のある風景	1868-1912年頃(明治期)	水彩、紙	府中市美術館
73	大和田篤治	船着場	1868-1912年頃(明治期)	水彩、紙	府中市美術館
74	吉田ふじを	鐘楼	1903(明治36)年頃	水彩、紙	府中市美術館
75	河合新蔵	湖畔	制作年不詳	油彩、キャンバス	星野画廊
76	河合新蔵	糸紡ぐ	制作年不詳	油彩、キャンバス	星野画廊
77	山田馬介	陽だまり	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	京都国立近代美術館
78	山田馬介	緑日	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
79	小笠原豊涯	便り	1904(明治37)年頃	油彩、キャンバス	星野画廊
80	堀規矩太郎	蟻螂犬に抗す	1901(明治34)年	油彩、板	星野画廊
81	百武兼行	風車のある風景	1877(明治10)年	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
82	黒田清輝	田園風景	1891(明治24)年	油彩、板	個人蔵
83	久米桂一郎	果園の春	1890(明治23)年	油彩、板	府中市美術館
84	浅井忠	ロワン河畔洗濯場	1901(明治34)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
85	鹿子木孟郎	外国風景	制作年不詳	パステル、紙	目黒区美術館
86	山下新太郎	ゲインズバラ「夫人像」模写	制作年不詳	油彩、板	目黒区美術館
87	原撫松	友人の像(ロンドンにて)	1907(明治40)年	油彩、キャンバス	星野画廊
88	エドワード・グREGORY	裸婦	1905(明治38)年	油彩、キャンバス	星野画廊
89	石橋和訓	裸婦習作	1905(明治38)年頃	油彩、キャンバス	目黒区美術館
90	石井柏亭	写生する人	1912(明治45)年	コンテ・水彩、紙	府中市美術館
91	中川八郎	薄暮の街	制作年不詳	コンテ・水彩、紙	郡山市立美術館
92	石川欽一郎	サウス・ケンジントン	制作年不詳	水彩、紙	郡山市立美術館
93	丸山晚霞	アンパレーの初夏	1912(明治45)年頃	水彩、紙	丸山晚霞記念館
94	渡辺豊州	月光	1890-1900(明治23-33)年頃	水彩、紙	京都国立近代美術館
95	栗原忠二	ハマースミス・ブリッジ	制作年不詳	油彩、板	郡山市立美術館
96	牧野義雄	テムズ川からウィンザー城を望む	1907(明治39)年頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
97	栗原忠二	オックスフォード	制作年不詳	グワッシュ、紙	郡山市立美術館
98	牧野義雄	チェルシー発電所遠望	1907(明治40)年	水彩、紙	府中市美術館
99	牧野義雄	ハイド・パークのアキレス像	制作年不詳	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
100	武内鶴之助	富士を眺む橋を行く人	1906-08(明治39-41)年頃	水彩、紙	星野画廊
101	武内鶴之助	夕暮れの牧場(ロンドン郊外)	1911-12(明治44-45)年頃	パステル、紙	星野画廊
102	武内鶴之助	英国南部ミル牧場	制作年不詳	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
103	武内鶴之助	ハトニーブリッジ	1908-12(明治41-45)年頃	油彩、キャンバス	目黒区美術館
104	武内鶴之助	ロンドン郊外	1908-12(明治41-45)年頃	パステル、紙	目黒区美術館
105	武内鶴之助	虹のある風景	1909-10(明治42-43)年頃	油彩、板	目黒区美術館
106	武内鶴之助	英国風景	1908-12(明治42-大正元)年頃	パステル、紙	静岡県立美術館
107	武内鶴之助	雷鳴	1908-12(明治42-大正元)年頃	パステル、紙	目黒区美術館
108	高橋勝蔵	桃と葡萄	1909(明治42)年頃	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
109	真野紀太郎	ウェリントン植物園	1924(大正13)年	水彩、紙	郡山市立美術館
110	石川欽一郎	ロンドン・テムズ河岸ハマースミス	1922(大正11)年頃	水彩、紙	郡山市立美術館
111	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	赤羽、芝公園の麓	1891(明治24)年	油彩、板	郡山市立美術館
112	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	東京、麻布	1891(明治24)年	油彩、板	郡山市立美術館
113	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	宮島の街並	1890(明治23)年	水彩、紙	郡山市立美術館
114	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	雪の京都、祇園へゆく道	1891(明治24)年	水彩、紙	郡山市立美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
115	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	神山旅館	1890(明治23)年	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
116	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋	1890(明治23)年	油彩、板	郡山市立美術館
117	アルフレッド・イースト	東京の雨の日	1889(明治22)年	水彩、紙	横浜美術館
118	アルフレッド・イースト	長崎	1889(明治22)年	水彩、紙	横浜美術館
119	アルフレッド・イースト	雨の町角	制作年不詳	エッチング、紙	福富太郎コレクション資料室
120	アルフレッド・イースト	日光	1889(明治22)年	水彩、紙	横浜美術館
121	アルフレッド・イースト	お堂	1889(明治22)年	水彩、紙	横浜美術館
122	アルフレッド・イースト	中禅寺	1889(明治22)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
123	アルフレッド・イースト	日光御神橋	1889(明治22)年	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
124	アルフレッド・イースト	クールマイヨール風景	1895-1905(明治28-38)年頃	水彩、紙	星野画廊
125	アルフレッド・パーソンズ	鎌倉の茶店	1892(明治25)年頃	水彩、紙	郡山市立美術館
126	アルフレッド・パーソンズ	箱根の秋	1892(明治25)年頃	水彩、紙	郡山市立美術館
127	アルフレッド・パーソンズ	吉田のアカマツの木立	1892(明治25)年頃	水彩、紙	個人蔵
128	アルフレッド・パーソンズ	日光の小堂	1892(明治25)年	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
129-01	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・キネンシス・プセウドインディカ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-02	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・マルティフローラ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-03	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・モスカータ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-04	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・デュボンティ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-05	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・ルガ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-06	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・ウィチュライアナ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-07	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・アネモネフローラ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-08	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・キネンシス・プセウドインディカ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-09	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・キネンシス・プセウドインディカ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-10	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・キネンシス×マルティフローラ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-11	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・ヘミスファエリカ(サルファ・ローズ)	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-12	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・ガリカ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-13	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・ブルボニカ(ブルボン・ローズ)	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-14	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・ケンティフォリア(キャベッジ・ローズ)	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-15	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・ケンティフォリア・ムスコサ(モス・ローズ)	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-16	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・ボンボニア(ローズ・ド・モー)	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-17	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・プロウインキアーリス・ワリエガータ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-18	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・カニーナ(ドッグ・ローズ)	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-19	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・アルバ	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
129-20	アルフレッド・パーソンズ	ロサ・モエシー	制作年不詳	リトグラフ、紙	コノサーズ・コレクション東京
130	三宅克己	日光	1896(明治29)年	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
131	三宅克己	風景	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
132	三宅克己	武蔵里、小川の残雪	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	京都国立近代美術館
133	大下藤次郎	青梅附近	1905(明治38)年	水彩、紙	府中市美術館
134	大下藤次郎	蓮池	制作年不詳	水彩、紙	郡山市立美術館
135	浅井忠	表：海辺風景 裏：干網	1906(明治39)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
136	都鳥英喜	れんげ畑	1905(明治38)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
137	霜鳥之彦	麦畑	1905(明治38)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
138	丸山晚霞	松並木(家路)	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
139	高橋勝蔵	水辺	1905(明治38)年	水彩、紙	郡山市立美術館
140	河合新蔵	ノウゼンカズラのある宿場	制作年不詳	水彩、紙	郡山市立美術館
141	吉田博	囲炉裏端	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
142	伊藤快彦	厨の春	1895(明治28)年頃	水彩、紙	京都国立近代美術館
143	黒田重太郎	厨房	1907(明治40)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
144	吉田博	簗坂	1894-99(明治27-32)年	水彩、紙	静岡県立美術館
145	吉田博	川のある風景	1896(明治29)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
146	吉田博	夜の干潟	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
147	吉田博	朝霧	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
148	吉田博	水のある風景	1903(明治36)年	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
149	吉田博	雨上か ^り の少年のいる風景	1903(明治36)年	水彩、紙	府中市美術館
150	吉田博	風景	制作年不詳	水彩、紙	郡山市立美術館
151	中川八郎	秋郊	制作年不詳	水彩、紙	郡山市立美術館
152	中川八郎	早春	制作年不詳	水彩、紙	郡山市立美術館
153	中川八郎	おぼろ月夜	制作年不詳	水彩、紙	郡山市立美術館
154	中川八郎	信州風景	1920(大正9)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
155	フェリックス・レガメ	若い母	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
156	モーティマー・メンベス	人力車	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
157	モーティマー・メンベス	長崎、港向こうに	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
158	モーティマー・メンベス	京都の仕事場	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
159	モーティマー・メンベス	青銅職人達	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
160	モーティマー・メンベス	青銅職人達	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
161	モーティマー・メンベス	七宝焼の職人	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
162	モーティマー・メンベス	日本の大工	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
163	モーティマー・メンベス	提灯の明かり、日本	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
164	モーティマー・メンベス	日本の幼児	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
165	モーティマー・メンベス	反映	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
166	モーティマー・メンベス	戸外での食事	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
167	モーティマー・メンベス	家庭の食事	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
168	モーティマー・メンベス	仲良し、日本	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
169	モーティマー・メンベス	京都、芝居見物	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
170	モーティマー・メンベス	小さなお母さん	制作年不詳	パステル・油彩・鉛筆、紙	府中市美術館
171	モーティマー・メンベス	若い青銅職人達	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
172	モーティマー・メンベス	青銅みがき	制作年不詳	油彩、キャンバス	福富太郎コレクション資料室
173	モーティマー・メンベス	日本の少女	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
174	モーティマー・メンベス	踊り	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
175	モーティマー・メンベス	京都の芸者	1914(大正3)年	エッチング、紙	横浜美術館
176	モーティマー・メンベス	三味線を弾く女	制作年不詳	油彩、キャンバス	福富太郎コレクション資料室
177	モーティマー・メンベス	瞽女さん	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
178	モーティマー・メンベス	芝居町	制作年不詳	油彩、板	福富太郎コレクション資料室
179	モーティマー・メンベス	芝居小屋の入口	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
180	モーティマー・メンベス	日本の役者達	1914(大正3)年	エッチング、紙	横浜美術館
181	五姓田義松	角兵衛獅子	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
182	牧野克次	八坂の塔	1904(明治37)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
183	霜鳥之彦	氷屋(於大極殿前)	1904(明治37)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
184	ジョルジュ・ピゴー	舞妓	明治24(1891)年	油彩、キャンバス	福富太郎コレクション資料室
185	チャールズ・ワークマン	御茶漬屋	制作年不詳	水彩、紙	横浜美術館
186	田中善之助	萩と茶屋	1907(明治40)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
187	国松桂溪	茶店	1907(明治40)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
188	長谷川良雄	茶店	1910(明治43)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
189	都鳥英喜	真如堂裏	1906(明治39)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
190	加藤源之助	八坂神社	1906(明治39)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
191	石川欽一郎	八瀬にて	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
192	伊藤快彦	男山八幡宮	1898(明治31)年	油彩、キャンバス	星野画廊
193	津田青楓	母子参詣図	1906-07(明治39-40)年頃	水彩、紙	星野画廊
194	長谷川良雄	糺の森	1905(明治38)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
195	梅原龍三郎	下賀茂の森	1904(明治37)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
196	加藤源之助	冬の森	1907(明治40)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
197	長谷川良雄	陶化橋	1910(明治43)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
198	長谷川良雄	牧場風景	1910(明治43)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
199	田中善之助	物干台のある風景	1907-08(明治40-41)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
200	黒田重太郎	白川村	1905(明治38)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
201	田中善之助	川ばた荒神口牧場	1906(明治39)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
202	田中善之助	朝の出町	1907(明治40)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
203	千種掃雲	坂道	1900-1912(明治33-45)年頃	水彩、紙	京都国立近代美術館
204	田中善之助	京都河原町丸太町角之家	1905(明治38)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
205	伊藤快彦	八瀬の秋	1903(明治36)年	油彩、キャンバス	星野画廊
206	新井謹也	京都加茂川畔	1908(明治41)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
207	加藤源之助	糺の祠	1907(明治40)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
208	伊藤快彦	山間清涼	制作年不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
209	梅原龍三郎	三十三間堂	1906(明治39)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
210	千種掃雲	川岸	1900-1912(明治33-45)年頃	水彩、紙	京都国立近代美術館
211	河合新蔵	水辺	1900-1912(明治33-45)年頃	水彩、紙	京都国立近代美術館
212	諫山麗吉	神戸付近の風景	制作年不詳	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
213	千種掃雲	浪華の春(港の風景)	1910(明治43)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
214	モーティマー・メンベス	大阪	1887-88(明治20-21)年	エッチング、紙	横浜美術館
215	浅井忠	琵琶湖	1906(明治39)年頃	油彩、キャンバス	府中市美術館
216	亀井竹二郎	「石版・懐古東海道五十三驛真景」油彩原画 草津驛 姥ヶ餅屋	1877(明治10)年	油彩、紙・ボード	郡山市立美術館
217	亀井竹二郎	「石版・懐古東海道五十三驛真景」油彩原画 舞阪驛 自渡口望新井	1877(明治10)年	油彩、紙・ボード	郡山市立美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
218	モーテイマー・メンベス	光と影	1887-88(明治20-21)年	エッチング	横浜美術館
219	チャールズ・ワーグマン	大阪市中風景	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
220	五姓田義松	伊勢国大神宮	1878(明治11)年	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
221	新井謹也	朝熊山(伊勢山田)	1909(明治42年)	水彩、紙	京都国立近代美術館
222	アルフレッド・イースト	富士山	1868-1912年頃(明治期)	油彩、キャンバス	府中市美術館
223	ジョルジュ・ピゴー	富士(沼津江浦)	1885-1887(明治18-20)年頃	油彩、板	静岡県立美術館
224	五姓田義松	富士	1905(明治38)年	油彩、キャンバス	静岡県立美術館
225	和田英作	富士	1899(明治32)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
226	和田英作	三保の松原	1911(明治44)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
227	大下藤次郎	田子の浦	1902(明治35)年	水彩、紙	静岡県立美術館
228	大下藤次郎	東海道岩渕	1897(明治30)年	水彩、紙	京都国立近代美術館
229	野崎華年	富士	1907(明治40)年	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
230	伊藤快彦	富嶽図	1898(明治31)年頃	油彩、キャンバス	星野画廊
231	渡辺文三郎	富士遠望	制作年不詳	油彩、キャンバス	府中市美術館
232	チャールズ・ワーグマン	箱根風景	制作年不詳	油彩、キャンバス	福富太郎コレクション資料室
233	五姓田義松	修善寺風景	1868-1912年頃(明治期)	水彩、紙	府中市美術館
234	五姓田義松	温泉の図	1868-82(明治元-15)年頃	油彩、キャンバス	星野画廊
235	沼辺強太郎	宿場風景	1868-1912年頃(明治期)	油彩、キャンバス	府中市美術館
236	亀井竹二郎	「石版・懐古東海道五十三驛眞景」 油彩原画 平塚驛 馬入川	1877(明治10)年	油彩、紙・ボード	郡山市立美術館
237	ジョルジュ・ピゴー	伊豆久米村海岸風景	制作年不詳	油彩、板	福富太郎コレクション資料室
238	モーテイマ・メンベス	箱根街道	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
239	フェリックス・レガメ	大井川渡し(下絵)	制作年不詳	墨、紙	福富太郎コレクション資料室
240	五姓田義松	旧東海道馬入茅ヶ崎間左富士	1905(明治38)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
241	チャールズ・ワーグマン	富士の見える宿場	制作年不詳	油彩、キャンバス	福富太郎コレクション資料室
242	ド・ラ・ボール夫人	江ノ島	1895(明治28)年	水彩、紙	星野画廊
243	ド・ラ・ボール夫人	箱根の夕照	1898(明治31)年	水彩、紙	星野画廊
244	ド・ラ・ボール夫人	小浜	1898(明治31)年	水彩、紙	星野画廊
245	ド・ラ・ボール夫人	松島	1898(明治31)年	水彩、紙	星野画廊
246	ド・ラ・ボール夫人	瀬戸内海の入口、淡路	1895(明治28)年	水彩、紙	星野画廊
247	ロバート・チャールズ・ゴフ	江ノ島	1877(明治10)年頃	油彩、キャンバス	小杉放菴記念日光美術館
248	チャールズ・ワーグマン	根岸湾の引潮	1868-1891(明治元-24)年頃	油彩、キャンバス	福富太郎コレクション資料室
249	バーナード・リーチ	Bernard Leach	上野附近風に耕す	Cultivating in the Wind, near Ueno	
250	チャールズ・ワーグマン	渡し場1	制作年不詳	墨、紙	福富太郎コレクション資料室
251	チャールズ・ワーグマン	渡し場2	制作年不詳	鉛筆・墨、紙	福富太郎コレクション資料室
252	松本民治	居留地夜景	制作年不詳	油彩、板	府中市美術館寄託
253	五百城文哉	小金井の桜	1868-1912年頃(明治期)	油彩、キャンバス	府中市美術館
254	吉田博	府中	1894-1899(明治27-32)年頃	水彩、紙	府中市美術館
255	三宅克己	多摩川	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	府中市美術館
256	中川八郎	春の雨	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
257	吉田博	青山風景	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
258	吉田博	青梅風景	制作年不詳	水彩、紙	福富太郎コレクション資料室
259	中川八郎	風景(東京)	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
260	渡辺文三郎	上州水沢観音	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
261	渡辺文三郎	上州妙義山の図	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
262	和田英作	上総風景	1897(明治30)年	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
263	ロバート・チャールズ・ゴフ	高崎の茶店	1877(明治10)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
264	寺松国太郎	風景	1912(大正元)年	油彩、キャンバス	府中市美術館
265	中沢弘光	坂ノ下	1868-1912年頃(明治期)	水彩、紙	府中市美術館
266	石川欽一郎	信州の田舎	制作年不詳	水彩、紙	郡山市立美術館
267	石川欽一郎	牛荘	制作年不詳	油彩、キャンバス	郡山市立美術館
268	丸山晚霞	高原の秋草	1896(明治29)年頃	水彩、紙	丸山晚霞記念館
269	大下藤次郎	尾瀬	1908(明治41)年	水彩、紙	府中市美術館
270	ヘレン・ハイド	日光	1908(明治41)年	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
271	ウォルター・ティンデル	日光の庭園	1909(明治42)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
272	ロバート・ウィアー・アラン	陽明門	1907(明治40)年	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
273	クレメント・パーマー	神橋	1890(明治23)年	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
274	T.TABUCHI	日光駅前風景	制作年不詳	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
275	T.TABUCHI	今市図	1911(明治44)年	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
276	Y.ITO	神橋	制作年不詳	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
277	Y.ITO	日光杉並木	制作年不詳	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
278	渡辺文三郎	日光神橋	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
279	石川欽一郎	神橋	1900-1910(明治33-43)年	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
280	小杉未醒	日光	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
281	五百城文哉	日光東照宮	制作年不詳	水彩、紙	府中市美術館
282	五百城文哉	東照宮・陽明門と神輿舎	1892-1905(明治25-38)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
283	河久保正名	東照宮・陽明門	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
284	沼辺強太郎	東照宮・陽明門	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
285	丸山晚霞	東照宮・鳥居	1900(明治33)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
286	河久保正名	東照宮・陽明門	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
287	S.Numabe(沼辺強太郎)	輪王寺・法華堂	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
288	N.Hisano	東照宮・神楽殿と上社務所	制作年不詳	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
289	河久保正名	輪王寺・三仏堂内部	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
290	河久保正名	大猷院・拝殿内部	1897-1912(明治30-45)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
291	五百城文哉	東照宮雪景	1892-1905(明治25-38)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
292	五百城文哉	四本龍寺・三重塔	1892-1905(明治25-38)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
293	五百城文哉	東照宮・陽明門	1892-1905(明治25-38)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館
294	五百城文哉	滝尾神社・鳥居	1892-1905(明治25-38)年頃	水彩、紙	小杉放菴記念日光美術館

7. 青木野枝　霧と鉄と山と

〔令和元年12月14日―令和2年3月1日〕

開催主旨：

彫刻家・青木野枝は、大気や水蒸気をモチーフに、万物がうつろいゆくなかの生命の尊さをあらわしてきた。その彫刻は、鉄や石膏という固く重い素材を用いながら、周囲の空気をまとして、とても軽やかに見える。作品のほとんどが展示場所に合わせて作られ、展示が終わると解体される。青木は、つくって、置き、崩す、を繰り返し、その営みのなかに自らの彫刻があると考え、実践しているのである。近年は第40回中原悌二郎賞(2017年)を女性として初めて受賞し、また全国各地で個展を精力的に行っている。

流れる時間のなかでふりそそぎ、つもっていくもの。そして青木の代名詞といえる鉄。展覧会に題された「霧と鉄と山と」は、青木の彫刻の要素すべてを含むことばである。

本展では、当館展示室に合わせて構想した新作とともに、石膏を用いた「原形質」シリーズ、最初期の丸銅で造形した彫刻など、青木野枝のエッセンスを集めた展示をご覧いただいた。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）＊（　）内は20名以上の団体料金

主催：府中市美術館

出品点数：13点

入場者数：9,300名(開催日数：62日間、1日平均150名)

印刷物：〔カタログ〕B5判128頁　〔記録集〕B5判32頁　〔ポスター〕B2判〔チラシ〕A4判二つ折4頁

関連イベント：

〔アーティスト・トーク〕

青木野枝（彫刻家）、12月14日・2月15日、企画展示室（230名）

〔鼎談「小さな同期会　大学時代の思い出話とこれからのことなど」〕

青木野枝（彫刻家）、安藤雅信（陶作家・現代美術作家・百草廊主）、伊藤誠（彫刻家）、1月11日、講座室（92名）

〔座談会「彫刻という幸いについて」〕

青木野枝（彫刻家）、池内晶子（美術家）、小田原のどか（彫刻家・彫刻研究）、利部志穂（美術家）、窪田美樹（彫刻家）、2月23日、講座室

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客で実施。記録を後日公開。

〔担当学芸員によるスライドトーク〕

神山亮子（当館学芸員）、12月21日・2月9日、講座室（64名）

〔さわって、感じる彫刻ツアー〕

子ども編1月26日、企画展示室ほか（60名）

※2月29日に予定していた大人編は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

関連記事：

山内宏泰　「山内宏泰のこの1枚に会いたい」　『CREA　vol.359』

2020年1月号

大西若人　「評」　朝日新聞　2020年1月7日

泉田友紀　「Culture 美・感」　読売新聞夕刊　2020年1月8日

村田真　「ウェブ美術」　北海道新聞　2020年1月13日

高橋咲子　「アートピックス」　毎日新聞夕刊　2020年1月15日

青野尚子　「青野尚子の今週末見るべきアート　青木野枝がつくる透明な

鉄の森へ」　『Casa BRUTUS WEB版』　2020年1月6日

林綾野　「今月のART美術」　『家庭画報』　2020年3月号

Miki Hisatake　「大人の美術部」　『おとなのおしゃれ手帖』

2020年3月号

中村佑子　「アート逍遙」　中國新聞　2020年2月18日

中村佑子　「アート逍遙」　岩手日報　2020年2月19日

中村佑子　「アート逍遙」　愛媛新聞　2020年2月20日

薄井崇友　「美術　創る・設置・解体の循環を会場で一度きりの展示」

『週刊金曜日1269号』　2020年2月21日

中村佑子　「美術　ミュージアム」　京都新聞　2020年2月22日

中村佑子　「アート逍遙」　新潟日報　2020年2月27日

中村佑子　「アート逍遙」　四国新聞　2020年2月27日

中村佑子　「アート逍遙」　信濃毎日新聞　2020年2月28日

「『彫刻』と『版画』立体と平面の関係」　『版画芸術No.187 2020春号』

2020年3月1日

中村佑子　「アート逍遙」　神戸新聞　2020年3月7日

8. ふつうの系譜　「奇想」があるなら「ふつう」もありますー京の絵画と敦賀コレクション

〔令和2年3月14日―5月10日〕

※本展覧会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月28日、29日、4月4日、5日、4月8日～5月10日の期間、臨時休館となった。

開催主旨：

いま、江戸時代の画家の中で、伊藤若冲や曾我蕭白ら「奇想の画家」が人気である。彼らの作品は強烈で奇抜で、心を揺さぶる。しかし考えてみれば、「奇想」という魅力は、「そうではないもの」、つまり「ふつう」があって初めて成り立つのかもしれない。

実際、若冲や蕭白がセンセーショナルに登場した時代、一方には、誰もが美しいと思うものを描く画家がいた。平安時代に生まれた美に命を与え続けてきた「やまと絵」の流派の画家もいれば、中国伝来の水墨画の良さを浸透させた「狩野派」の画家もいた。また、若冲や蕭白と同じ時代に、同じ京で、未知の美に挑み、彼らに劣らない人気を得た円山応挙や原在中、岸駒らもいる。

敦賀市立博物館には、300点を超える江戸時代から近代にかけての絵画コレクションがあるが、「奇想の画家」たちの作品は一点もなく、いわば「ふつう」の美しさをたたえる作品が徹底的に収集されている。今回、これまで当館でその一部を展示してきた敦賀市立博物館の全面的な協力を得て、同館のコレクションから選りすぐりのおよそ100点をご紹介します。

観覧料：

一般700円（560円）、高校生・大学生350円（280円）、小学生・中学生150円（120円）＊（　）内は20名以上の団体料金

主催：

府中市美術館

特別協力：

敦賀市立博物館

出品点数：

105点

入場者数：

3,231名（開催日数：17日間、1日平均190名）

印刷物：

〔カタログ〕B5判変形252頁　〔ポスター〕B2判

〔チラシ〕A4判二つ折4頁

関連イベント：

〔20分スライドレクチャー〕

金子信久（当館学芸員）、毎週日曜日、講座室

〔展覧会講座「ふつうの系譜ー江戸絵画の『美しさ』を見渡す』〕

金子信久（当館学芸員）、4月4日、講座室

〔トークイベント「語って楽しむ『ふつうの系譜』〕〕

加藤敦子（敦賀市立博物館学芸員）、金子信久（当館学芸員）、5月2日、講座室

※20分スライドレクチャー、展覧会講座およびトークイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

〔子ども向けイベント「ふつう探検隊』〕

会期中随時（1,609名）

関連記事：

「5つのキーワードで見る“ふつう”はすごい」　『OFF』　2020年1月号

高橋咲子　「アートの扉　円山応挙　狗子図　柔らかな画家の視線」

毎日新聞　2020年3月30日

千葉恵理子　「美の履歴書643　無数の矢降らせた者は『妖怪退治図

屏風』伝・岩佐又兵衛」　朝日新聞　2020年3月31日

山下裕二　「体感日本美術」『禅の友』　2020年4月号

「文化　奇想とは何か問う」　南日本新聞　2020年4月10日

「文化　『ふつう』形作る写実性」　岩手日報　2020年4月10日

「美術　一筋縄ではない『ふつう』」　京都新聞　2020年4月11日

「学芸　美術史の語り方とは?」　伊勢新聞　2020年4月12日

「ぶんか　美術史の語り方とは?」　日本海新聞　2020年4月12日

「芸能・文化　美意識の主流　改めて探る」　中國新聞　2020年4月14日

「文化ふくい　『ふつう』の美とは」　福井新聞　2020年4月15日

「奇想際立たせる主流の力」　四國新聞　2020年4月16日

「文化　一筋縄ではいかない『ふつう』」　山形新聞　2020年4月17日

石川健次　「Art Scene」『サンデー毎日』　2020年4月26日

山下裕二　「山下裕二の日本美術の名宝　長沢盧雪『紅葉狗子図』」

『プレシャス』　2020年5月号

菅谷淳夫　「こちらも要注目の展覧会」『サライ』　2020年5月号

藤田一人　「美術　世俗性と公的権威の一致」　公明新聞

2020年5月6日

石川健次　「アートな時間」　『週刊エコノミスト』2020年5月12日

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	伝岩佐又兵衛	妖怪退治図屏風	江戸時代前期(17世紀前半)	紙本金地着色	個人蔵
2	作者不詳	牧童群牛図屏風	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
3	曾我蕭白	猩々と牛図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
4	曾我蕭白	山水図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	個人蔵
5	曾我蕭白	騎驢人物図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	個人蔵
6	曾我蕭白	山水図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	個人蔵
7	曾我蕭白	鍾馗図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画	個人蔵
8	土佐光孚	仙洞御所修学寺御幸図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
9	土佐光文	清涼殿前歌舞図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
10	土佐光貞	井出玉川図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
11	土佐光成	七夕図	江戸時代前期(17世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
12	土佐光起	伊勢図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
13	土佐光起	菊鶉図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
14	土佐光芳	藤原定家像	江戸時代中期(18世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
15	板谷広長	業平東下図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
16	土佐光孚	花丸文様屏風	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本金地着色	敦賀市立博物館
17	冷泉為恭	忠孝図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
18	冷泉為恭	高台・日・月図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
19	冷泉為恭	童子読書図	江戸時代後期(19世紀)	紙本墨画	敦賀市立博物館
20	冷泉為恭	春日禰宜内記朝臣像	江戸時代後期(19世紀)	紙本墨画	敦賀市立博物館
21	冷泉為恭	五位鶯図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
22	田中訥言	鶴包丁図	文化8(1811)年	紙本墨画淡彩	敦賀市立博物館
23	浮田一蕙	隅田川図	江戸時代後期(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
24	狩野探幽	観音・鯉図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本淡彩	敦賀市立博物館
25	狩野探幽	朝陽鷹図	寛文6(1666)年	絹本着色	敦賀市立博物館
26	狩野探幽	山水図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本淡彩	敦賀市立博物館
27	狩野常信	東方朔・獅子・諫鼓図	江戸時代前期-中期 (17世紀後半-18世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
28	狩野栄信	菊慈童・菊図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
29	狩野養信	日月岩波図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
30	狩野永岳	楼閣山水図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
31	円山応挙	西王母・寿老図	安永5(1776)年	絹本着色	敦賀市立博物館
32	円山応挙	相生松図	寛政4(1792)年	絹本着色	敦賀市立博物館
33	円山応挙	紅葉白鹿図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
34	円山応挙	狗子図	安永7(1778)年	絹本淡彩	敦賀市立博物館
35	円山応挙	狗子図	安永7(1778)年	絹本淡彩	個人蔵
36	円山応挙	猛虎図	天明2(1782)年	紙本着色	公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団 (府中市美術館寄託)
37	源琦	菊慈童図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
38	源琦	藍采和図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本墨画淡彩	敦賀市立博物館
39	源琦	伊勢大輔図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	個人蔵
40	森狙仙	藤下遊猿図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
41	森狙仙	蜂猿図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
42	長沢蘆雪	雪中鴛鴦図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
43	長沢蘆雪	老子図	江戸時代中期(18世紀後半)	紙本淡彩	敦賀市立博物館
44	長沢蘆雪	紅葉狗子図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
45	松村景文	月・山桜小禽・山茶花鴛鴦図	天保8(1837)年	絹本着色	敦賀市立博物館
46	中村西溪	猛虎図	天保2(1831)年	紙本着色	敦賀市立博物館
47	松村景文	合歡花小禽図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
48	呉春	柳枝小禽図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
49	原在中	二見浦富士図	天保元(1830)年	絹本着色	敦賀市立博物館
50	原在中	天橋立図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
51	原在中	富士三保松原図	文政11(1828)年	絹本着色	敦賀市立博物館
52	原在中	富士山図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画淡彩	敦賀市立博物館
53	原在中	養老滝真景図	天保元(1830)年	絹本着色	敦賀市立博物館
54	原在中	海上飛鶴図	天保8(1837)年	絹本着色	敦賀市立博物館
55	原在中	嵐山図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
56	原在中	山州嵐山真景図	文政12(1829)年	絹本着色	敦賀市立博物館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
57	原在中	風雪三顧図	天明6(1786)年	絹本着色	敦賀市立博物館
58	原在中	柳樹駿馬図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
59	原在明	桜鞠・紅葉鞠図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
60	原在明	氷室山水図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
61	岸駒	巖上双鶴図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
62	岸駒	花鳥図	天明元(1781)年	絹本着色	敦賀市立博物館
63	岸駒	白蓮翡翠図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
64	岸駒	南極老人図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
65	岸駒	富士山図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨画	敦賀市立博物館
66	岸駒	松下福祿寿図	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本淡彩	敦賀市立博物館
67	岸駒	猛虎図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本墨画	敦賀市立博物館
68	岸駒	寒山拾得図	江戸時代中期(18世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
69	岸連山	竜虎図	弘化4(1847)年	紙本墨画	敦賀市立博物館
70	岸竹堂	群鳥図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	絹本着色	敦賀市立博物館
71	岸良	猛虎嘯風図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本墨画淡彩	敦賀市立博物館
72	岸礼	百福図	明治6(1873)年	紙本淡彩	敦賀市立博物館
73	幸野樗嶺	舟鉦図	明治14(1881)年	絹本着色	敦賀市立博物館
74	幸野樗嶺	雪中清水寺	明治時代(19世紀後半)	紙本淡彩	敦賀市立博物館
75	幸野樗嶺	嵐山雪景図	明治時代(19世紀後半)	絹本淡彩	敦賀市立博物館
76	幸野樗嶺	敗荷鴛鴦図	明治時代(19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
77	堀川文麟	柳汀飛蛭図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	絹本墨画金彩	敦賀市立博物館
78	谷口香嶺	賊兵襲多治見国長邸図	明治25(1892)年	絹本着色	敦賀市立博物館
79	高谷篁圃	三美人図	明治時代-大正時代 (19世紀後半-20世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
80	鈴木松年	朝陽蟻軍金銀搬入図	明治時代-大正時代 (19世紀後半-20世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
81	梅戸在貞	三保之松原図屏風	明治時代-大正時代 (19世紀後半-20世紀前半)	紙本金彩	敦賀市立博物館
82	土佐光貞	栗に鶉図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
83	土佐光貞	吉野・竜田図	享和2(1802)年	絹本着色	敦賀市立博物館
84	土佐光起	花籠図	江戸時代前期(17世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
85	田中訥言	嵐山図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
86	狩野雅信	菊花図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
87	張月樵	花鳥図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
88	原在正	七草図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
89	浮田一蕙	雪中狼図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本淡彩	敦賀市立博物館
90	原在中	菊に鶏図	天明5(1785)年	絹本着色	敦賀市立博物館
91	岸恭	四季花卉図屏風	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	紙本着色	敦賀市立博物館
92	橋本長兵衛(初代)	仙人図	安土桃山時代-江戸時代前期 (16世紀後半-17世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
93	菊池容斎	関ヶ原合戦図屏風	安政元(1854)年	絹本金地着色	敦賀市立博物館
94	原在中	竜図	天保5(1834)年	絹本墨画金彩	敦賀市立博物館
95	曾我二直庵	雪中山水図	江戸時代前期(17世紀)	紙本墨画金泥	敦賀市立博物館
96	浮田一蕙	徒然草図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
97	曾我二直庵	岩上鷹・柳枝鷹図	江戸時代前期(17世紀)	紙本墨画	敦賀市立博物館
98	狩野探信	紅葉賀図	江戸時代後期(19世紀前半)	絹本着色	敦賀市立博物館
99	原在中	関羽図	江戸時代中期-後期 (18世紀後半-19世紀前半)	絹本墨画	敦賀市立博物館
100	岸竹堂	華嚴滝図	江戸時代後期-明治時代(19世紀)	絹本墨画	敦賀市立博物館
101	浮田一蕙	十界曼荼羅図	弘化4(1847)年	絹本着色	敦賀市立博物館
102	住吉広賢	楠公千早籠城図	江戸時代後期-明治時代 (19世紀後半)	絹本着色	敦賀市立博物館
103	中島来章	三国志武将図屏風	文政5(1822)年	紙本金時着色	敦賀市立博物館
104	狩野永岳	山水図屏風	慶応3(1867)年	紙本墨画淡彩	敦賀市立博物館
105	岸良	琴棋書画図屏風	江戸時代後期(19世紀)	資本金地着色	敦賀市立博物館
106	原在中	山水図屏風	天保2(1831)年	紙本金地墨画	敦賀市立博物館

平成30年度	
第1期	5月19日－9月2日
常設展	「江戸時代から現代まで」
牛島憲之記念館	「人工物のある風景」
第2期	3月16日－5月12日
常設展	「府中市美術館コレクション名作選」
牛島憲之記念館	「やわらかな牛島憲之の世界」

令和元年度	
第1期	5月25日－9月1日
常設展	「府中・多摩の美術」 「版の世界」 「牛島憲之とその時代」
第2期	9月14日－12月1日
常設展	「江戸時代の美術」 「洋画家たちの写生旅行」
第3期	12月14日－3月1日
常設展	「『戦後』の美術」 「武蔵野のアトリエ」 「牛島憲之の色とかたち」
第4期	3月14日－5月10日
常設展	「江戸時代から現代まで」

・作者自身の命題や適当な来歴名称がなく、当館が便宜的に付けた作品名には*印を付した。

作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ (cm)
■平成30年度購入				
石川欽一郎	春の茶店	制作年不詳	紙、水彩	49.6×31.8
笠木治郎吉	帰鯨	制作年不詳	紙、水彩	50.1×35.2
河合新蔵	富士	制作年不詳	紙、水彩	34.7×51.5
五姓田義松	旧東海道馬入茅ヶ崎間左富士山	制作年不詳	キャンバス、油彩	25.8×45.5
中川八郎	春の雨	制作年不詳	紙、水彩	32.6×49.3
長谷川利行	白い背景の人物	昭和12(1937)年	キャンバス、油彩	90.0×115.8
三宅克己	多摩川	明治41(1908)年	紙、水彩	52.6×68.8
吉田博	桜楼	制作年不詳	紙、水彩	27.2×18.9

■平成30年度移管				
江田豊	碑	昭和35(1960)年	キャンバス、油彩、石膏	145.9×97.6
久保制一	なつ	平成元(1989)年	ブロンズ	140.0×135.0×135.0
執行正夫	夜の詩(2)	昭和49(1974)年	キャンバス、油彩	119.0×143.5
田宮進	春の海	昭和55(1980)年	キャンバス、油彩	145.8×112.5
前田舜敏	VILLA	昭和55(1980)年	キャンバス、油彩	130.8×130.8
正宗得三郎	府中並木街	制作年不詳	キャンバス、油彩	50.0×61.0
柳原義達	道標・鳩	昭和54(1979)年	ブロンズ	31.0×31.0×36.0
藪野健	フェデリコのいた町	昭和55(1980)年	キャンバス、油彩	146.0×145.7
山本貞	アリス考	昭和52(1977)年	キャンバス、油彩	145.7×112.4
山本正道	遺跡の見える風景	昭和51(1976)年	ブロンズ	25.0×40.0×96.0

■令和元年度寄贈					
相笠昌義	アンダルシアの貧しい少女	昭和57(1982)年	紙、銅版	59.5×48.5	寺田小太郎氏寄贈
相笠昌義	夏・鉄棒図	平成13(2001)年	ガラス、油彩	13.5×17.5	寺田小太郎氏寄贈
相笠昌義	メキシコにて、スーパーニール売り	平成13(2001)年	ガラス、油彩	13.5×17.5	寺田小太郎氏寄贈
相笠昌義	サンミゲールアジェンデのこども達	平成17-19(2005-2007)年	キャンバス、油彩	21.5×27.4	寺田小太郎氏寄贈
青木野枝	亀池・蓮池6	平成12(2000)年	紙、エッチング、ドライポイント	55.0×65.0	寺田小太郎氏寄贈
青木野枝	Owl Light 4	平成12(2000)年	紙、石版	44.0×54.0	寺田小太郎氏寄贈
青木野枝	寒天7	平成12(2000)年	紙、エッチング、ドライポイント、 アクアチント、スピットバイト	37.0×41.3	寺田小太郎氏寄贈
磯見輝夫	恋人たち	平成4(1992)年	紙、木版	52.9×40.9	寺田小太郎氏寄贈
岩永てるみ	リヨンへ	平成30(2018)年	紙、顔料	53.0×72.8	寺田小太郎氏寄贈
瑛九	夢	昭和27(1952)年、 昭和44(1969)年刷	紙、銅版	36.0×19.0	寺田小太郎氏寄贈
瑛九	ささやき	昭和28(1953)年、 昭和44(1969)年刷	紙、銅版	36.0×19.0	寺田小太郎氏寄贈
大森朔衛	静物	制作年不詳	キャンバス、油彩	38.0×45.7	森恭彦氏寄贈
オノサトシノブ	Silk-10	昭和42(1967)年	紙、シルクスクリーン	66.8×65.8	寺田小太郎氏寄贈
オノサトシノブ	Silk-12	昭和42(1967)年	紙、シルクスクリーン	47.7×47.0	寺田小太郎氏寄贈
柿崎兆	水面	平成13(2001)年	紙、木版	66.5×96.4	寺田小太郎氏寄贈
柿崎兆	風花	平成13(2001)年	紙、木版	66.2×96.3	寺田小太郎氏寄贈
柿崎兆	一葉	平成14(2002)年	紙、木版	51.4×67.0	寺田小太郎氏寄贈
加納光於	燐と花と	昭和34(1959)年	紙、インタリオ	51.3×40.0	寺田小太郎氏寄贈
加納光於	流れの中でA	昭和35(1960)年	紙、インタリオ	57.0×47.9	寺田小太郎氏寄贈
加納光於	翼・予感	昭和36(1961)年	紙、インタリオ	75.5×42.4	寺田小太郎氏寄贈
加納光於	E001	昭和47(1972)年	紙、フロッタージュ、色鉛筆	21.8×21.0	寺田小太郎氏寄贈
加納光於	E003	昭和47(1972)年	紙、フロッタージュ、色鉛筆	24.7×18.7	寺田小太郎氏寄贈
加納光於	風-寄り添うもののⅢ	平成3-4(1991-1992)年	紙、カラーインタリオ	35.5×28.7	寺田小太郎氏寄贈
加納光於	鳥影-遮るものの変容	平成22(2010)年	紙、カラーインタリオ	31.4×57.8	寺田小太郎氏寄贈
川口起美雄	build a canal	平成29(2017)年	板、油彩、テンペラ	91.4×162.1	寺田小太郎氏寄贈
川村悦子	黄いろい花	平成29(2017)年	キャンバス、油彩	145.5×145.5	寺田小太郎氏寄贈

作者	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	
駒井哲郎	街(『蟻のいる顔』より)	昭和48(1973)年	紙、アクアチント	36.5×26.5	寺田小太郎氏寄贈
駒井哲郎	Nature Morte	昭和50(1975)年	紙、アクアチント	28.5×25.0	寺田小太郎氏寄贈
清宮質文	夕方の静物(『暗い夕日』5)	昭和47(1972)年	紙、木版	31.4×24.2	寺田小太郎氏寄贈
清宮質文	夕日の静物(『暗い夕日』9)	昭和47(1972)年	紙、木版	20.5×28.0	寺田小太郎氏寄贈
富田菜摘	九平次	平成28(2016)年	金属廃材、ミクストメディア	49.0×29.0×44.0	寺田小太郎氏寄贈
富田菜摘	ブン	平成28(2016)年	金属廃材、ミクストメディア	34.0×19.0×46.0	寺田小太郎氏寄贈
富田有紀子	985	平成26(2014)年	キャンバス、油彩	61.0×61.0	寺田小太郎氏寄贈
難波田龍起	街	昭和32(1957)年	キャンバス、油彩	33.4×24.3	寺田小太郎氏寄贈
難波田龍起	ファンタジー	昭和33(1958)年	キャンバス、油彩	27.2×22.0	寺田小太郎氏寄贈
難波田龍起	発生B	昭和34-35(1959-1960)年	キャンバス、油彩	79.5×65.0	寺田小太郎氏寄贈
難波田龍起	コンポジション	昭和48(1973)年	キャンバス、油彩	24.1×33.1	寺田小太郎氏寄贈
難波田龍起	静寂	昭和56(1981)年	キャンバス、油彩	22.5×15.7	寺田小太郎氏寄贈
難波田龍起	追憶	平成7(1995)年	紙、インク、パステル、水彩	32.3×40.9	寺田小太郎氏寄贈
難波田史男	奇妙な時	昭和42(1967)年	紙、インク、水彩	26.9×38.1	寺田小太郎氏寄贈
難波田史男	水の蜃気楼	昭和43(1968)年	紙、インク、水彩	27.0×38.0	寺田小太郎氏寄贈
難波田史男	日没	昭和43(1968)年	紙、インク、水彩	27.0×38.1	寺田小太郎氏寄贈
難波田史男	花園	昭和45(1970)年	紙、インク、水彩	26.8×37.8	寺田小太郎氏寄贈
逸見享	春近く	大正13(1924)年	紙、木版	16.0×11.5	寺田小太郎氏寄贈
堀込幸枝	Light and Microbe	平成26(2014)年	キャンバス、油彩	100.0×80.5	寺田小太郎氏寄贈
増永直樹	淡水にて	昭和33(1958)頃	キャンバス、水彩	162.0×130.0	今泉亜子氏寄贈
増永直樹	夏の輔道	昭和46(1971)年	キャンバス、水彩	79.0×106.0	今泉亜子氏寄贈
増永直樹	シャルトルの寺院	昭和55(1980)年	キャンバス、水彩	130.0×162.0	今泉亜子氏寄贈
増永直樹	風景	制作年不詳	紙、水彩	38.0×57.0	今泉亜子氏寄贈
増永直樹	台湾風景	昭和32-35(1957-1960)年頃	キャンバスボード、油彩	41.0×53.0	今泉亜子氏寄贈
村上友晴	無動寺	昭和60(1985)年	紙、水彩	50.5×38.5	寺田小太郎氏寄贈
村上友晴	作品*	昭和61(1986)年	板、アクリル	22.4×18.4	寺田小太郎氏寄贈
元田久治	Foresight- Shibuya Center Town	平成29(2017)年	紙、石版	106.5×143.5	寺田小太郎氏寄贈
山口啓介	満の記憶	平成3(1991)年	紙、エッチング	168.0×192.0	寺田小太郎氏寄贈
山口啓介	枯野と幼年期の終わり	平成12(2000)年	紙、エッチング	101.0×72.0	寺田小太郎氏寄贈
山本麻友香	Big Foot	平成26(2014)年	キャンバス、油彩	80.5×65.5	寺田小太郎氏寄贈
山口長男	題不詳*	制作年不詳	紙、水彩	54.3×23.0	寺田小太郎氏寄贈
吉田遠志	キリマンジャロの朝	昭和52(1977)年	紙、木版	30.5×63.7	寺田小太郎氏寄贈
和田英作	薔薇	昭和4(1929)年	キャンバス、油彩	32.0×41.0	町田友衛氏寄贈

2 | 美術資料の修復

平成30年度	令和元年度
呉亜沙《Discoverer》	倉田三郎《庭隅》
	須田 寿《夏童》

*額装を除く

3 | 作品貸出状況

展覽會名	
會場 會期	
貸出作品	

平成30年度 「ねこがいっぱい ねこアート展」 ひろしま美術館 平成30年4月21日－6月24日 司馬江漢《蝶と猫図》 「戦後美術の現在形 池田龍雄展－楕円幻想」 練馬区立美術館 平成30年4月26日－6月17日 池田龍雄《女》	「茅野市市制60周年記念事業 信濃美術をみつめる『描くことこの地との出会い』」 茅野市美術館 平成30年7月28日－9月9日 正宗得三郎《トックの女》 正宗得三郎《白浜の波》 正宗得三郎《三穂村雪景》 正宗得三郎《鎮守の森》 正宗得三郎《素園小景》
--	---

池田龍雄《将軍》	「民家の画家 向井潤吉 人物交流記」
池田龍雄《大通り》	世田谷美術館 平成30年9月8日-11月4日
池田龍雄《装甲虫》	都鳥英喜《風景》
池田龍雄《ユークリッド》	安井曾太郎《臥裸婦》

「次代への表現展 ベストセレクション」 おぶせミュージアム・中島千波館 平成30年5月11日-7月17日 曾谷朝絵《Washbowl》	「1968年-激動の時代の芸術」 千葉市美術館 平成30年9月19日-11月11日 北九州市立美術館分館 平成30年12月1日-平成31年1月27日 静岡県立美術館 平成31年2月10日-3月24日 高松次郎《石と数字》
「AIZU MUSEUM創立20周年記念 藪野健展-記憶の扉	

會津八一記念博物館 平成30年6月28日-8月5日	「岡本太郎と『今日の芸術』 絵はすべての人の創るもの」
藪野健《時を刻み、又時が》	アーツ前橋 平成30年10月5日-平成31年1月14日
藪野健《ルサ広場にて》	赤瀬川原平《模型千円札》
	立石大河亜《登呂井富士》

「鳥取画壇の祖　土方稲嶺」
鳥取県立博物館　平成30年10月6日－11月11日
土方稲嶺《群鶴図》
円山応挙《猛虎図》（寄託）

「岩本拓郎　すべてのいろとかたち」
武蔵野市立吉祥寺美術館　平成31年1月12日－2月24日
岩本拓郎《SOU－F(P.S.)》

「江戸の奇跡・明治の輝き　日本絵画の200年」
岡山県立美術館　平成31年3月15日－4月21日
大久保一丘《伝大久保一岳像》

「戦国足立の三国志－宮城氏・舎人氏・武蔵千葉氏－」
足立区立郷土博物館　平成31年3月19日－令和元年5月6日
鹿子木孟郎《南足立郡本木村》

令和元年度
「見て、感じて、遊ぼう!はなが遊園地－府中市美術館のゆかいな創作版画コレクションより－」
上田市立美術館　平成31年4月20日－令和元年6月2日
安城市民ギャラリー　令和元年6月8日－7月15日
掛川市二の丸美術館　令和元年7月20日－9月1日
須坂版画美術館・平塚運一版画美術館
令和元年9月12日－10月29日

勝央美術文学館　令和元年11月9日－12月1日
棟方末華《馬場大門櫺並木之賦》
竹田源太郎《アイヌの店》
小林清親《武蔵百景之内　深かわ木場》
小林清親《武蔵百景之内　道灌山》
井上安治《高縄鉄道》
井上安治《向島夜桜》
井上安治《上野動物園》
川上澄生《初夏の風(ローマ字)》
川上澄生《水兵》
川上澄生《甲比丹散歩之図》
川上澄生《南蛮ぶり》
川上澄生《煙管三本》
川上澄生《和洋風俗着せ替え人形》
川上澄生《万字人物》
恩地孝四郎《若い世代》

前川千帆《新宿夜景》
前川千帆《踊子》
前川千帆《花売り娘》
前川千帆《仔馬と夕月》
前川千帆《朝の浴場》
浅野竹二《食卓の猫》
浅野竹二《蝸牛(かたつむり)》
浅野竹二《しゃがむ男》
浅野竹二《あか牛》

浅野竹二《老婆》
浅野竹二《唄う女》
浅野竹二《おんどりとめんどり》
浅野竹二《魚をくわえた鳥》
浅野竹二《赤い鳥》
浅野竹二《立っている毛物》
浅野竹二《海女》
浅野竹二《見物人たち》
浅野竹二《雨の人群》
浅野竹二《和合》
浅野竹二《釣人たち》
浅野竹二《猫と鳥》
浅野竹二《陶工》
浅野竹二《いろはかるた》
前田政雄《溪流》
前田政雄《ハヶ岳》
笹島喜平《笹島喜平自画像》
笹島喜平《韋駄天》
笹島喜平《阿修羅》
北岡文雄《女の顔》
北岡文雄《花と金魚鉢》
北岡文雄《北国の海辺》
北岡文雄《波止場》
北岡文雄《悲しみ》
関野準一郎《三千院(京都)》
関野準一郎《曼珠沙華》
関野準一郎《恩地孝四郎像》
稲垣知雄《コーヒー挽きのある静物》
稲垣知雄《バナナ》
稲垣知雄《深夜》
清宮質文《夏の終わり》
谷中安規《幻想集(1)》～《幻想集(9)》
谷中安規《撃手》
谷中安規《可愛い龍》
谷中安規《お化け模様》
田嶋宏行《暗い庭》
田嶋宏行《砂の中》
田嶋宏行《古代の文字》
田嶋宏行《青いびん》
田嶋宏行《赤の誕生》

「没後100年　岡崎が生んだ天才　村山槐多展」
おかざき世界子ども美術博物館　令和元年6月1日－7月15日
上田市立美術館　令和元年7月20日－9月1日
村山槐多《川のある風景》
村山槐多《スキと人》
村山槐多《男》
村山槐多《代々木風景》

「日本美術に見る動物の姿」
ナショナル・ギャラリー・オブ・アート(ワシントンDC)
令和元年6月2日－8月18日
《珍禽図屏風》(寄託)
上田公長《狐の嫁入り図屏風》(寄託)

「太田喜二郎と藤井厚二－日本の光を追い求めた画家と建築家」
目黒区美術館　令和元年7月13日－9月8日
太田喜二郎《ベルギー風景》

「生誕120年・没後100年　関根正二展」
福島県立美術館　令和元年9月14日－11月10日
三重県立美術館　令和元年11月23日－令和2年1月19日
神奈川県立近代美術館　鎌倉別館　令和2年2月1日－3月22日
関根正二《裸婦》
関根正二《佳人立像》
関根正二《少女》
村山槐多《川のある風景》
安井曾太郎《臥裸婦》

「西洋美術にみる　神話の世界」
美術館「えき」KYOTO　令和元年10月18日－11月17日
群馬県立近代美術館　令和2年2月8日－2月29日
岡崎市美術博物館　令和2年4月4日－4月10日
高知県立美術館　令和2年5月30日－7月12日
ラファエル・コラン《田園恋愛詩》

「森田恒友展」
福島県立美術館　令和元年11月23日－令和2年1月19日
埼玉県立近代美術館　令和2年2月1日－3月22日
青木繁・森田恒友《春の夕》

「生誕140年記念　背く画家　津田青楓とあゆむ明治・大正・昭和」
練馬区立美術館　令和2年2月21日－4月12日
ジャン＝ポール・ローランス《ピエトロ》

「魅惑の世界：北斎、広重と日本・江戸の美術」
オークランドアートギャラリー　令和2年3月7日－8月16日
葛飾北斎《雪中鷺図》(寄託)

4 | 図書及びその他資料

美術図書室

府中市美術館には、全国的に見ても美術図書室としては有数の規模を誇る、美術に関する資料を集めた図書室がある。ここでは、国内外の古い雑誌のバックナンバーや展覧会カタログを含む、主に近・現代の美術を中心とする文献資料や情報を収蔵しており、無料で公開している。

利用者は検索コンピュータを利用し、図書の自由な検索ができる。図書の貸出は行なっていないが、著作権の問題が生じない範囲内で複写を利用できる。また、企画展の開催にあわせて「展覧会関連本」の紹介コーナーを設けている。

蔵書一覧

		平成29年度以前	平成30年度	令和元年度	蔵書数
受入数(冊)		63,894	1,324	1,343	66,561
内訳	書籍	42,628	982	969	44,579
	雑誌	21,255	341	373	21,969
	その他(DVD、複製本など)	41	1	1	43

3 | 教育普及事業

1 | 公開制作

公開制作は、美術各分野の専門家を招聘し、公開制作室を中心に作品制作をしてもらい、そのプロセスとテクニックを公開する事業である。芸術家と市民が直接ふれあう機会をつくり、一般的な講座等では得られない創造性を媒介とした、生きた学習の場を提供することを目的としている。多岐にわたる美術ジャンル、すぐれた美術作家の中から、教育的な観点、現代的な話題性などを考慮し、ふさわしい作家を紹介している。各作家は、府中に一定期間滞在するか、または通って制作を行う。期間中、作家によってはアーティスト

平成30年度

公開制作73 金田実生「青空と月」 4/21-7/8

公開制作74 富長敦也「Love Stone Project -Fuchu」 7/21-9/2

公開制作アーカイブ 3/16-4/6

公開制作 73

「青空と月」

アーティスト: 金田実生

会期: 平成30年4月21日(土) - 7月8日(日)

制作日: 4月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日・祝)、5月6日(日)、19日(土)、20日(日)、27日(日)、6月2日(土)、10日(日)

制作場所: 公開制作室

関連イベント:

[ワークショップ]「私の線を集めよう」金田実生 6月16日(土)(11名)

[アーティストトーク] 金田実生 7月8日(日)(61名)

制作内容:

金田実生は、紙に油彩という独特の組み合わせで、身のまわりの風景や人の気配をやさしく描く。今回はより軽やかな描画材である水彩絵具やクレヨン、木炭を用いたドローイングを中心に公開制作することとした。

まず環境を整える。壁に薄いベニヤ板を張って平滑な面を確保し、さらに薄手の紙で覆う。床に保護板を敷き、作業机を水場の周りに配置した。机の上にはさまざまな種類の画材や道具を並べる。その後、ロール状の紙から必要なサイズを切り出して壁に固定。絵具を溶いて丹念に準備し、慎重にかつ素早く筆を振るっていく。経験と計算がみずみずしさを損なわないように、姿勢をまっすぐに画面に集中する姿に、描くことに対する真剣さが伝わってくる。ときおり公園に出かけ、空や動植物をスケッチして持ち帰った。およそ3ヶ月の間に、大小の紙のドローイング112点、ノートに描いたものが139点、合計251点の作品が描かれた。

トークやワークショップなど、観客が参加できるイベントを交え、現代の美術表現の紹介とともに教育普及活動としての複合効果もねらっている。また「公開制作アーカイブ」は、公開制作の記録を整理し、過去の資料とあわせて公開するものである。1プログラム(作家)ごとに、写真、映像、印刷物、書類等をまとめ、美術館活動の記録とするとともに、現代の作品制作の基礎資料の形成を目指している。

令和元年度

公開制作75 原田郁「もうひとつの世界 10年目の地図」 4/13-7/7

公開制作76 山口啓介「メタモルフォセス」 7/20-12/1

公開制作77 高嶋英男「からっぽに満たされる」 12/14-3/1

公開制作アーカイブ 3/14-4/11



ドローイングは、画家の手と頭と物が共犯関係をもってイメージを即時的に生成させる場だ。油彩を用いた重層的な画面づくりと異なり、画面上の画家の経験をストレートに物語る。公開制作された数多くのドローイングは、金田が制作室やその周辺で過ごした時間の量と経験に、来館者が同伴することを可能にしてくれた。同時期の常設展に、金田実生《今日も何かが届けられる》(2002年、油彩、紙)を展示し、油彩による大画面の魅力も紹介した。

ワークショップ:

クレヨン、木炭、水彩絵具、割り箸やスポンジ、ホッチキスなど、さまざまな画材を用いて線を描いた。講師の指導により、力の入れ方や順序の違いなどで、異なる表情が生まれることを体験した。

公開制作 74

「Love Stone Project - Fuchu」

アーティスト: 富長敦也

会期: 平成30年7月21日(土) - 9月2日(日)

制作日: 7月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)、8月10日(金)、11日(土・祝)、12日(日)、14日(火)、15日(水)、31日(金)、9月1日(土)、2日(日)

制作場所: 公開制作室

協力: 一穂堂

関連イベント:

[キックオフイベント]「府中から世界に届け!石のたね」富長敦也

7月21日(土)(10名)

[アーティストトーク]「アートと人と社会をつなぐ」富長敦也、三浦梨絵(ときわミュージアム／UBEビエンナーレ事務局学芸員)／武居利史(当館学芸員) 9月2日(日)(25人)

制作内容:

人間をテーマに石を彫り続けてきた彫刻家・富長敦也は、近年「Love Stone Project(ラヴ・ストーン・プロジェクト)」という活動に精力的に取り組んできた。日本国内はもとより、世界の各地を旅して、ハート形に彫刻した石を、その土地で出会う人々と一緒に磨き、みんなの想いで輝かせるプロジェクトだ。

2011年の東日本大震災のあと、出来事のすべてを見ていた石の声を聞くために、被災した東北の町を訪れた。そこで、石を割ったときに生まれる自然のハートを発見し、人々が石を通じて自然の一部であると感じれば、世界は一つになれることを確信したという。それ以来、人々ともに富長はハート型の石を磨く活動を始めた。

2013年には、イタリア・イラン・旧ユーゴスラビアの石(トラバーチン)による《Our Love》が、第25回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)で大賞を受賞、本格的に各地で取り組むきっかけとなった。これまでにプロジェクトは、世界150か所で行われ、およそ2万人が参加している。作家による制作を見るだけでなく、観客も一緒に触れて制作に参加することのできる公開制作であった。

制作プロセス:

ハート形に彫刻した3つの石を運び込む。台座の配置を決め、白いトレーの上に石をのせて水を注ぎ、作業を始めた。ホワイトボードに紙やすりの使用計画を書き、壁にこれまでの各地でのプロジェクトの写真を貼る。キックオフイベントに集まった人で参加者に配る「石のたね」を作る。

最初が一番粗い120番の紙やすりで石を磨く。さまざまな人が公開制作室を訪れて磨いていく。お年寄りから子どもまで幅広い年齢の人が訪れ、家族連れも目立つ。より細かい240番に変わる。石を磨いていくと色味が少し濃くな



り、模様がはっきりとしてくる。だれでも磨きやすいように椅子をおく。作家の不在時でも、多くの人が立ち寄って磨いていくので、用意した紙やすりが減っていく。紙やすりの番数を上げて、400番で磨き始める。いろいろな方が会場をのぞき、石磨きをしていく。お盆に入り、家族で来場する方が増えてくる。水で濡らすと光沢が出る。

さらに800番の紙やすりで磨き始める。石の色が次第に深く濃くなる。子どもたちもたくさん磨きにきてくれる。1500番の紙やすりを使い始める。石の表面の光沢が目立ち、完成へと近づく。番数が変わるたびに磨きにcoming人もいる。3000番の紙やすりにアップする。磨くことで一段と石の表面の光沢感が出てくる。

仕上げにダイヤモンドチップ入りの最も肌理の細かい6000番のやすりを用いる。会期末で来場者も増え、いろいろな方が訪れて磨いていく。「石のたね」も増やす。最終日、水の入っていたバットを取り去る。石を直接台座にのせ、布でからぶきする。3つの石の配置を調整して展示が完成した。

完成作品:

《Love Stone Project -Fuchu》2018年、3種類のトラバーチン

(白)47×42×18cm、イタリア産

(黄)55×31×21cm、旧ユーゴスラビア産

(赤)34×53×19cm、イラン産

キックオフイベント:

世界各地でLove Stone Projectの参加者に配る「石のたね」を作る。「石のたね」は、石を彫刻する際に出たかけらを、ハート型に切り抜いた色付きPPシートと一緒に透明袋に入れたもの。

アーティストトーク:

Love Stone Projectの歩みをふりかえり、その魅力や意義について考えながら、アート・社会・人をつなぐプロジェクトの可能性を語りあった。

「もうひとつの世界 10年目の地図」

アーティスト: 原田郁
会期: 平成31年4月13日(土)－令和元年7月7日(日)
制作日: 4月13日(土)、14日(日)、21日(日)、28日(日)、5月5日(日・祝)、6日(月・祝)、25日(土)、26日(日)、6月2日(日)、9日(日)
制作場所: 公開制作室

関連イベント:
[ワークショップ]「原田さんといっしょに『窓の絵』を描いて飾ろう!」原田郁
6月16日(日) (16名)
[アーティストトーク]原田郁 7月7日(日) (30名)

制作内容:
コンピューター上の仮想世界と、絵画という現実世界を行き来して制作してきた原田郁。公開制作では、室内に近作数点とモニターを配置したあと、さっそく150号のキャンバスを張って、下地を塗り始めた。
パソコンの中の〈inner world〉にも公開制作室を作る。〈inner world〉は、シンプルな描画ソフトを使って、原田が10年かけて築いた仮想世界だ。そこには鳥があって緑の木々が繁茂し、水上に船が浮かぶ。建物や野外彫刻もある。原田は、その仮想世界から風景を切り取り、キャンバスとアクリル絵具を使って「絵」にしていけるのだ。
〈inner world〉の公開制作室の周囲には、公園やタンク、建物が配置された。現実が存在する場所も、架空の場所も混ざっている。室内の様子は実際の作業進行に合わせて更新していき、コンピューター内の公開制作室が、現実と同期していった。
構図が決まると、その図をキャンバスにプロジェクターで投影し、鉛筆でな



ぞって下描きを進めた。色塗りの前には、下描きの線に沿ってマスキングテープを貼る。隣り合う色が混ざらないようにするためだ。パソコンを見ながら絵具を調合して塗り、乾いたらテープをはがし、また別の場所にテープを貼って塗る、という作業が繰り返される。原田は丁寧に色を重ねて色調を整え、絵を完成させた。
仮想と現実の世界を行き来する、今の私たちの環境を反映するような空間が、公開制作室に現れていた。質量を持って存在する原田の絵画の強さも実感できた。

ワークショップ:
部屋の中と外をつなぐ光の入口であり、しばしば絵にも例えられる窓を、正方形の画面に好きな画材を使って描いた。完成した絵は、原田講師が作るコンピューター上の美術館に展示され、最後にみなで鑑賞した。



「メタモルフォセス」

アーティスト: 山口啓介
会期: 令和元年7月20日(土)－12月1日(日)
制作日: 7月20日(土)、21日(日)、23日(火)、24日(水)、25日(木)、11月9日(土)、10日(日)、13日(水)、14日(木)、15日(金)、16日(土)、17日(日)、21日(木)、23日(土・祝)、24日(日)
制作場所: 公開制作室

関連イベント:
[ワークショップ]「カセットプラントをつくろう」山口啓介
11月23日(土) (25名)
[アーティストトーク]「メタモルフォセス」山口啓介 11月24日(日) (30名)
[公開制作作家派遣授業]「カセットプラントをつくろう」山口啓介
11月25日(月)・28日(木) (64人)

制作内容:
山口啓介は、1980年代後半に方舟を描く大型の銅版画で注目を浴びて以来、巨大なアクリル画や立体作品にも表現手法を広げながら、自然と生命の歴史を幻視する壮大なイメージ世界を紡いできた。それは核汚染のような地球の深刻な環境破壊など、現代社会が直面する問題の数々を、美しく優しい色と形を通して、幾重にも重なるイメージの叙事詩としての語りでもある。現在は、主に兵庫県で制作をしているが、東京の武蔵野美術大学で学んだ山口は、福生市にもアトリエを構え、初期の制作拠点としていた。身近な武蔵野の自然や米軍基地の存在など多摩地区の文化的風土からも影響を受けている。創作と並行して取り組む、植物の花や葉などをカセットケースに封入する「カセットプラント」のワークショップも、1999年に府中市で行ったのが最初であった。
花や種子、心臓など自然界にある魅惑的なイメージに託して、神話的、宗教的ともいえる、啓示に満ちた人類の物語を描き続ける山口の絵画は、時代の変化に機敏に感応しながら、変幻自在に進化をとげている。今回の絵画を中心とした公開制作では、描くという行為を通して、作家の心に生まれるイメージがどのように展開していくのか、その創作の秘密に迫るものだった。

制作プロセス:
まず、床面に大きな紙を敷き、白い塗料を一面に塗布し、壁には紙に描いた作品をかける。準備ができた状態で、画面の左側からアクリル絵の具をヘラで塗りつけていく。青、黄緑、濃紺の絵の具を使う。画面の左側にも絵の具を塗り始め、画面全体が絵の具で覆われる。絵の中にも入って描く。ガラス面にはカセットプラントも作られる。
左側に白い絵の具を塗り、4つの峰のある山の形を描く。水面に浮かぶ鳥のよう。青い色が涼しげでさわやか。左側の白い鳥のような形の中に空色で模様を描き、描き込みを進める。緻密に筆を入れ、全体の描き込みが進み、画面の密度が高まってくる。

「からっぽに満たされる」

アーティスト: 高嶋英男
会期: 令和元年12月14日(土)－令和2年3月1日(日)
制作日: 12月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日)、1月25日(土)、26日(日)、2月1日(土)、2日(日)、8日(土)、9日(日)、11日(火・祝)
制作場所: 公開制作室

関連イベント:
[学校派遣事業]「スペシャル図工」府中市のアーティストとコラボしよう!
府中市立白糸台小学校6年生3クラスを対象に1月9日(木)と14日(火)、高嶋英男が授業を実施、1月15日(水)に「府中市美術館鑑賞教室」で来館し、公開制作の様子を見学した。
[ワークショップ]「やきものでうつわの人をつくろう」高嶋英男
1月12日(日・祝) 27名
[アーティストトーク]3月1日(日)に予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

左側の鳥形を描き終えると、ふたたび4つの峰のある鳥か船のような下描きに取り組む。画面の右側に型紙をおいて位置を決め、白い絵の具で左側と似たような形を描く。右側にも空色の模様のある白い対象物があられ、画面のイメージに動きが出てくる。
右側の白いモチーフを中心に細部を描き込む。作品全体が引き締まってくる。右側のモチーフが立体的になり、画面全体を調整して作品ができあがる。床から作品をはがし、上端を水貼りテープで補強し、ガンタッカーで壁に打ち付けて展示が完成した。

完成作品:
《睡蓮を巡って 海を渡る叙事詩》2019年 アクリル・水彩、紙
240×360cm

ワークショップ:
乾燥させた花や葉をカセットケースに入れ、ガラス面で組み合わせ、参加者全員でインスタレーションを制作した。初めての試みとして造花も加えた。ワークショップ完成作品《植物のタペストリー》は、11月23日-12月1日の期間で展示した。

アーティストトーク:
スライドを交えて公開制作の作品のコンセプト、3.11以降続ける《震災後ノート》のことなど、近年の制作について想いを語った。

公開制作作家派遣授業:
府中市立府中第七小学校4年生2クラスを対象に、図画工作科(伊藤志帆教諭)の授業で、子どもたちが乾燥させた花や葉を自分で選び、カセットに封入して組み合わせ、校内にインスタレーションを完成させた。



制作内容：

日本画、工芸、彫刻を専門的に学び、身につけた技術を混交させて用いて、現代の人物表現に取り組む高嶋英男。高嶋は200キロの粘土を持ち込み（のちに40キロほどが追加された）、180センチを超える人体像を作った。

工程はとてもシンプルで、粘土を手びねりで成形し、器をつくるようにして足元から壁を立ち上げていく。工具類は使わず、全身の力をかけて粘土と組み合うのだ。2本の足が垂直に伸びていき、胴体の位置で合流する。1日の作業が終わると高嶋は、粘土の乾燥を防ぐために毎回新しいラップフィルムで丁寧にくるんでいた。

途中、学校派遣事業の講師として地域の小学校で特別授業を行った。美術館では一般対象にやきもののワークショップを開催した。

2ヶ月ほど経って、いよいよ頭部が肩に乗った。袋状の構造でもって地面から立ち上がった人体は、頭部にぽかんと開いた「穴」で完成する。穴はそこだけ気圧が異なるように、強い吸引力を、あるいは拡散する力を感じさせた。

粘土の焼成は、外部にある釜で行う予定であったが、アクシデントにより中止された。母校の小学校の釜を使うことを模索した矢先、新型コロナウイルス感染症対策のため休校となり実現できなかった。アーティスト・トークも中止となった。

思いがけない計画変更に、高嶋も、地域ゆかりの美術家を応援しようと意気込んでいた美術館も戸惑ったが、翌年開催の「メイド・イン・フチュウ 公開制作の20年」展に照準を定め直し、完成作品を披露する約束をしたのだった。

ワークショップ：

高嶋英男の制作モチーフである「うつわの人」を、参加者がそれぞれ解釈して、粘土を用いてつくった。講師の創作活動と共通する素材や技法、工程を経験し、講師の作品や活動への関心を深めた。

2 | アートスタジオ

アートスタジオは平成19年度から、子どもから若者までの成長期にある10代の青少年を主な対象に、美術の学習を支援するプログラムとして、ティーンズスタジオの名称でスタートした。土曜日の午後を中心に、若手アーティストである講師の指導と、ボランティアスタッフの援助により、さまざまな表現活動を楽しむとともに、学芸員のミニ・レクチャーや展覧会を鑑賞する活動も行った。平成24年度からは、主な対象者を10代にとどめずに大きく広げ、定期的に開催するワークショップ・シリーズとして、アートスタジオへと改称した。平成21年度からすでに第一土曜日は、誰でも手軽に体験できるオープンプログラムが始まっていたが、平成24年度からは最終土曜日に鑑賞を通して美術の理論を学ぶトークプログラムが新たにスタートした。中旬には、アートスタジオの基本となる、展覧会などと連動した通常プログラムを開催している。

平成30年度

■アートスタジオ

- ・「長谷川利行展をみて、油絵具であそんでみよう」
6月23日、24日 小学生以上 38名
久保萌菜（画家）
内容：伝説の洋画家の作品をヒントに油絵の具でボール紙に描く体験。
- ・「キャッチ・ザ・レイン」
7月1日 5歳以上 38名
山内佑輔・水野明香（小学校図工専科教諭）
内容：水に色を加えて紙に降らせ、その世界を秘密のルーペでのぞく造形体験。
- ・夏休みスペシャル「オリジナル自由ノートを作ろう」
7月25日、28日、8月1日、4日、8日、11日 338名
吉池さとみ（画家）
内容：雑誌などコラージュして表紙を飾り、紙をひもで綴って自分だけのノートを作る。
- ・夏休み自由工房「海洋木工倶楽部～大きな海の仲間を作ろう」
8月18日、19日、25日、26日 小学生以上 90名
下角宗範・馬場稔郎（彫刻家）
内容：「海」をテーマに、のこぎりやトンカチを使う木工を中心に、好きな素材を組み合わせたり、色をぬったりして、大きな海の仲間や群れを作る。

■アートスタジオ オープンプログラム

- ・「春色の墨流しで巻物づくり」
4月7日 109名
山口健児（画家）
内容：水に色を流して模様を作り、和紙に写し取って、巻物に仕立てる。
- ・「くらやみに灯す、ミニちょうちんを作ろう」
5月5日 181名
馬場稔郎（彫刻家）
内容：紙に好きな絵や文字を描き、小さい提灯にして、LEDロウソクで光

- らせる。
・「ミニミニ水族館」
6月2日 112名
山口健児（画家）
内容：カラーセロファンで綿をくるんで魚を作り、プリンカップの中にテグス糸で吊る。
- ・「ブチ・キャンバス!下地から作ってみよう」
7月7日 128名
久保萌菜（画家）
内容：布を板に張るところから簡単なキャンバスを作り、クレヨンで描く。
- ・「秋の色と形みつけた!フェルトバッグづくり」
9月1日 183名
林瑠璃（テキスタイルデザイナー）
内容：好きな色のフェルトを好きな形に切り、はり合わせてバッグを作る。

■アートスタジオ トークプログラム

- ・「批評で楽しむ美術の世界」
5月26日 一般向き 10名
武居利史（当館学芸員）
内容：美術を語ったり、聴いたり、書いたり、読んだりする、批評の面白さについて考える。

令和元年度

■アートスタジオ

- ・「公園でみつけた!春の風景をスケッチ」
4月20日 小学5年生以上 17名
山内若菜（画家）
内容：美術館周辺の公園を散策し、魅力的な風景を発見し、素描作品として仕上げる。
- ・「木版画にトライ」
6月8日・9日 小学生以上 49名
斉藤里香（版画家）
内容：版木を彫って水性絵の具で和紙に摺る、木版画技法の広がり体験する。
- ・夏休み自由工房「めぶく花咲く もくもく物語」
7月20日、21日、8月17日、18日 小中学生 71名
馬場稔郎・大迫春菜（彫刻家）
内容：ノコギリやトンカチを使い、「植物」をテーマに工作をする。
- ・夏休みスペシャル「とびだす!ゆめの絵本をつくろう」
7月27日、31日、8月3日、7日、10日、14日 771名
山口健児・吉池さとみ（画家）
内容：厚紙や折り紙で、ひらくと飛び出すポップアップの絵本を作る。
- ・「ズッコロッカ☆図工でもしよっか」
9月22日 92名

水野明香(ズッコロッカ代表)、市内図工教員	・「手袋でつくる“ゆるかわ”ぬいぐるみ」
内容：図工の先生が企画する様々な図工の時間を体験できるワークショップ 「ビジュモンGO! ～美術館にひそむモンスターをつかまえろ!～」 「大きなマドで…」 「すけゆら ゆらりん」の三種類のワークショップを実施。	11月2日 121名 林瑠璃(テキスタイルデザイナー) 内容：手袋を使って、動物に見立てたお気に入りのぬいぐるみを作る。
・「府中の宇宙をのぞいてみよう!望遠鏡&惑星づくり」	・「ひかりとあそぶモビールをつくろう」
10月19日 小学生以上 19名 渡辺望(美術家)	1月4日 127名 久保萌葉(画家、当館指導員)
内容：紙筒とレンズでケプラー式望遠鏡を作り、のぞいて見える世界を描いて惑星型の飾りを制作する。	内容：カラーセロファンを圧着し、偶然できる色や形を生かした作品を作る。
・「油絵で植物をじっくりと描いてみよう」	・「もうすぐ春、季節の掛け軸を作ろう」
1月18日、2月8日 小学5年生以上 19名 久保萌葉(画家)	2月1日 120名 山口健児(画家)
内容：ゆっくり乾く油絵具を4回にわけて少しずつ重ね、観葉植物をモチーフに深みのある静物画を描く。	内容：墨で描いた絵に、絵の具を作って色をつけ、掛け軸に仕立てる。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全4回のうち前半2回のみ実施。	
■アートスタジオ トークプログラム	
・「プチ日本画体験!ほんわか春を描こう」	・「美術館の楽しみ方～第1回 展覧会」
4月6日 65名 山口健児(画家)	5月25日 一般向き 23名 武居利史(当館学芸員)
内容：水干絵の具や墨を使って、春にちなんだものを、小さな色紙に描く。	内容：美術館の一番身近な機能である展覧会の見どころや成り立ちについて考える。
・「張り子でつくる 紙のうつわ」	・「美術館の楽しみ方～第2回 教育普及」
5月4日 77名 久保萌葉(画家)	6月29日 一般向き 17名 武居利史(当館学芸員)
内容：新聞紙などをちぎって貼り重ね、器の形をつくる。	内容：参加や体験を通して鑑賞や創作を学ぶ機会を提供する教育普及について考える。
・「凸版でおもしろ模様のハンカチづくり」	・「美術館の楽しみ方～第3回 建築」
6月1日 98名 林瑠璃(テキスタイルデザイナー)	9月28日 一般向き 23名 武居利史(当館学芸員)
内容：紙や糸など凸版で生まれる風合いや模様を見つけ、ハンカチにプリントする。	内容：時代や社会の理想を反映して建設される美術館の建築について考える。
・「星で飾ろう☆万華鏡ボックス」	・「美術館の楽しみ方～第4回 コレクション」
7月6日 190名 吉池さとみ(画家)	10月26日 一般向き 11名 武居利史(当館学芸員)
内容：紙を切り抜いて組み立て、のぞき穴を仕込んで箱型の万華鏡を作る。	内容：美術館が収蔵する作品や資料の利用について考える。
・「イケ面でGO!」	・「美術館の楽しみ方～第5回 ショップ・カフェ」
10月5日 51名 馬場稔郎(彫刻家)	11月30日 一般向き 17名 武居利史(当館学芸員)
内容：ボール紙を切り抜いて自分の好きなお面を作る。	内容：美術館と暮らしを結ぶショップやカフェの役割について考える。
	・「美術館の楽しみ方～第6回 ボランティア」
	1月25日 一般向き 13名 武居利史(当館学芸員)
	内容：市民活動の場としての美術館の広がりをさぐる。

3 | ワークショップ

ワークショップは、専門家の講師による指導を受けながら、受講者が集まり、体験を共有しながら学習するプログラムである。開館以来、絵画、彫刻、工芸から現代美術、デザインまで幅広い内容を取り上げてきた。また、レベルも中級から上級者向きのものまで多彩なプログラムを用意し、子供向けの企画等も積極的に開催してきたものである。平成24年度から、ティーンズ・スタジオに代わって、定期的なワークショップ・シリーズであるアートスタジオがスタートした。そのため、単独企画によるワークショップの開催回数は少なくなったが、公開制作などに関連したもの、市民団体との連携によるものなどは継続されることになり、多様な事業・団体との連携を図りながら開催を続けている。

平成30年度
・「天平体験!塀土を使って人の形を作ろう」
4月8日 高校生以上 19名 藤田尚樹(彫刻家・修復家)
内容：古代の材料と技法で人物像を造る。
・「公開制作関連ワークショップ 私の線を集めよう」
6月16日 小学生以上 11名 金田実生(画家)
内容：さまざまな画材を用いて線を描く。
・「公開制作キックオフイベント 府中から世界に届け!石のたね」
7月21日 10名 富長敦也(彫刻家)
内容：世界各地でLove Stone Projectの参加者に配る「石のたね」を作る。
・「夏休みワークショップ ジグザグビヨンで大変身!」
7月30日 小中学生 53名 市内小中学校図工・美術教諭
内容：大きくやわらかい紙を使って楽しい造形活動を行う。
・「ワークショップ 館長とお絵かきしよう」
10月14日 84名 藪野健(当館館長)
内容：「市民文化の日」で画家でもある藪野館長と参加者の描いた絵をコラージュして大きな作品を作る。

令和元年度
・「みず絵とすみ絵のおもしろワークショップ」
10月13日 72名 地域美術
内容：「市民文化の日」で、水彩画と水墨画を体験する。
・「ギャラリートーク つながるアート作品を語ろう～日本語・英語・中国語」
11月16日 4名 武居利史(当館学芸員)・大杉健(武蔵野大学准教授)
内容：多言語での対話により、風景を中心とした絵画の鑑賞を楽しむ(日本語と英語又は中国語)。
・「公開制作関連ワークショップ いっしょに『窓の絵』を描いて飾ろう!」
6月16日 小学4年生以上 16名 原田郁(画家)
内容：部屋の中と外をつなぐ光の入口であり、しばしば絵にも例えられる窓を描く。完成した絵を、作家が作るコンピューター上の美術館に展示する。
・「公開制作関連ワークショップ カセットプラントをつくろう」
11月23日 小学生以上 33名 山口啓介(画家)
内容：植物の花や葉などをカセットケースに入れ、組み合わせてインスタレーション作品を制作する。
・「公開制作ワークショップ やきものでうつわの人をつくろう」
1月12日 小学生以上 27名 高嶋英男(彫刻家)
内容：「うつわの人」を粘土を使って作る。
・「公開制作作家学校派遣授業 カセットプラントをつくろう」
11月25日 府中第七小学校4年生2クラス64名 山口啓介(画家)
・「公開制作作家学校派遣授業 スペシャル図工 府中市のアーティストとコラボしよう」
1月9日 白糸台小学校6年生3クラス88名 高嶋英男(彫刻家)

4 | 美術鑑賞教室

府中市教育委員会・府中市立小中学校長会・府中市立小中学校教育研究会との共催により、府中市立小学校の児童第4～6学年、同中学校の生徒第1学年を対象に、美術館の展示作品（および美術館の建築と館内の諸施設）を鑑賞する学習プログラムである。小学校は「展示作品の鑑賞を通して、美術作品のよさや美しさ、表し方への関心を高め、豊かな情操を養うとともに、自らが主体的に意欲や興味をもって鑑賞する態度を育てる」ことを目的としている。おおむね、小学校は学年単位の団体鑑賞（図工教員と教育普及担当学芸員が事前に打ち合わせをし、当日は学芸員がギャラリートークを行い、授業内容の向上を図っている）、中学校は各校の鑑賞計画に基づいて生徒の個別鑑賞に取り組んでいる。

5 | 教員研修会

学校教員を対象にした図工・美術に関する研修会や研究会を開催している。美術館には、本物の美術作品があり、生きた鑑賞学習を体験することが可能であるとともに、関係する作家などの人的な資源や、美術に関する情報も集積しており、地域の図工・美術教育の研修や研究に貢献している。単独主催のものほかに、教育委員会や教員の自主的な研究団体との共催によるものなどがあり、美術館が活発に利用されている。また、研究団体による大規模な大会の会場ともなっており、府中市内のみならず東京都や全国の図工・美術教育の学校教員とも連携を図っている。

平成30年度

- ・「府中市立小中学校教育研究会　中学生のためのギャラリートツアー」事前研修会　7月26日　小中学校図工美術教員10名
府中市立小中学校教育研究会「中学生のためのギャラリートツアー」7月27日　小中学校図工美術教員11名
武居利史（当館学芸員）
- ・「羽村市立小中学校教育研究会　図工・美術部」7月27日　小中学校図工美術教員12名
武居利史（当館学芸員）

平成30年度

- 府中市立小学校美術鑑賞教室　小学生2,240名、引率者139名
- 府中市立中学校美術鑑賞教室　中学生2,232名

令和元年度

- 府中市立小学校美術鑑賞教室　小学生2,225名、引率者137名
- 府中市立中学校美術鑑賞教室　中学生1,782名

- ・「府中市立小中学校教育研究会　夏休みワークショップ」7月30日　小中学校図工美術教員23名
武居利史（当館学芸員）
- ・「東京都教職員研修センター専門性向上研修　美術館を活用した対話による鑑賞の指導」8月6日　中学校美術教員ほか134名
中村一哉（前府中市立府中第五中学校校長）

令和元年度

- ・「府中市立小中学校教育研究会　中学生のためのギャラリートツアー」事前研修会　7月25日　小中学校図工美術教員10名
武居利史（当館学芸員）
- ・「府中市立小中学校教育研究会　中学生のためのギャラリートツアー」7月26日　小中学校図工美術教員9名
武居利史（当館学芸員）

6 | 団体鑑賞支援

団体鑑賞支援は、府中市立小中学校の美術鑑賞教室を除く、学校教育や社会教育の団体・機関による鑑賞を、学芸員等が解説や指導にあたることで支援する活動を指す。府中市立小中学校において、美術鑑賞教室以外にも学校独自の活動として鑑賞の授業や見学が行われている。またPTAや私立の学校、市外の学校による鑑賞活動もある。幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校など、さまざまな校種において美術館の利用を推進している。

平成30年度

- ・「府中市立府中第三小学校3年生社会科見学」小林真結（当館学芸員）
5月29日　児童117名、引率者6名
- ・「武蔵村山市立第九小学校5年生団体鑑賞」小林真結（当館学芸員）
6月6日　児童59名、引率者5名
- ・「府中市適応指導教室　けやき教室」武居利史（当館学芸員）
6月12日　小中学生8名、引率者5名
- ・「調布市立富士見台小学校4年生団体鑑賞」

- 武居利史（当館学芸員）
6月29日　児童83名、引率者6名

令和元年度

- ・「府中市立府中第三小学校3年生社会科見学」小林真結（当館学芸員）
5月28日　児童136名、引率者7名
- ・「府中市適応指導教室　けやき教室」鎌田享（当館学芸係長）
6月11日　小中学生6名、引率者6名
- ・「武蔵村山市立第九小学校5年生団体鑑賞」小林真結（当館学芸員）
6月26日　児童47名、引率者5名
- ・「調布市立富士見台小学校4年生団体鑑賞」小林真結（当館学芸員）
6月28日　児童71名、引率者5名
- ・「調布市立第一小学校4年生団体鑑賞」神山亮子（当館学芸員）
8月28日　児童100名、引率者7名

7 | 大学等連携事業

●博物館実習

府中市美術館では平成13年度から博物館実習生を受け入れている。多くの大学からの要望に公平に応えられるよう、毎年、各大学より1名ずつを受け入れている。

平成30年度

- 実習生　10名　7月24日～8月3日（8日間、土日月を除く）

令和元年度

- 実習生　14名　7月30日～8月9日（8日間、土日月を除く）

〔受け入れ大学名（五十音順）〕

秋田公立美術大学、十文字学園女子大学、首都大学東京、女子美術大学、成城大学、清泉女子大学、大正大学、多摩美術大学、中央大学、帝京

大学、東京女子大学、東京造形大学、日本大学、一橋大学、武蔵大学、武蔵野美術大学、明星大学、立教大学

●大学連携事業

平成30年度

- ・「彫刻と対話法Ⅳ 揺さぶられる作意」6月12日～24日
主催：武蔵野美術大学大学院彫刻コース／芸術文化政策コース・府中市美術館
会場：市民ギャラリー
入場者数：1,267名（一日平均106名）
内容：武蔵野美術大学大学院彫刻コース2年生7名およびゲストの美術家・箕輪亜希子による作品展示。同大学院芸術文化政策コースの学生が展示構成や広報、冊子の制作に関わった。会期中には、

公開講評、ワークショップ、シンポジウムを開催した。

出品者：木村桃子、齋藤絵利花、生威、関根夏望、中村悠一郎、前田春日美、劉櫻、箕輪亜希子（ゲスト作家）

関連企画：

「ワークショップ みんなで作ろう、粘土人間!」6月17日 創作室 小学生以上21名

「シンポジウム 揺さぶられた関係性について考察する」6月23日 講座室 出品者、箕輪亜希子、神山亮子 30名

「公開講評」6月13日 講座室 彫刻コース／芸術文化政策コース教員

・「日本大学芸術学部団体鑑賞」

小林真結（当館学芸員）

6月17日 大学生36名、引率者2名

・「武蔵野大学 図画工作指導法鑑賞演習」

武居利史（当館学芸員）

7月7日、21日 大学生107名

・「千葉大学 博物館学芸員資格取得コース」

武居利史（当館学芸員）

8月25日 大学生10名

令和元年度

・「彫刻と対話法Ⅴ カンガルーが走れば」

6月19日～30日

主催：武蔵野美術大学大学院彫刻コース・芸術文化政策コース

協力：府中市美術館

会場：市民ギャラリー

入場者数：774名（一日平均60名）

内容：武蔵野美術大学大学院彫刻コース2年生8名による作品展示。同大学院芸術文化政策コースの学生が展示構成や広報、冊子の制作に関わった。会期中には、公開講評、公開ディスカッションを開催した。

出品者：石川夏帆、石山慧華、鎌崎静、川又健士、熊谷明雄、迫竜樹、神農理恵、須山恵子

関連企画：

「公開講評」 6月23日 講座室 彫刻コース／芸術文化政策コース教員、出品者

「公開ディスカッション」 6月30日 講座室 出品者、勝俣涼 18名

・「武蔵野大学 図画工作指導法鑑賞講座」

武居利史（当館学芸員）

5月25日、6月1日 大学生84名

・「武蔵野大学 小学校の美術館における鑑賞」

武居利史（当館学芸員）

11月23日 大学生21名

・「千葉大学 博物館学芸員資格取得コース」

武居利史（当館学芸員）

12月21日 大学生25名

・「首都大学東京システムデザイン学部 美術博物館実習」

武居利史（当館学芸員）

10月5日 大学生22名

●保育連携事業

平成30年度

・子育てひろば「はじめてアート」

保育支援課地域支援担当保育士、当館学芸員

4月25日、6月14日、8月22日、3月22日 0歳児とその保護者64組128名

令和元年度

・子育てひろば「はじめてアート」

保育支援課地域支援担当保育士、当館学芸員

4月24日、6月21日、8月22日、11月22日、2月13日 0歳児とその保護者66組132名

●市民協働事業

令和元年度

ミュージアムコンサート「明治の唱歌から今に受け継がれる歌」

11月16日 55名

岡原真弓（こんにゃく座歌役者）

4 | ボランティア活動

開館以来、ボランティア活動は企画展や公開制作などの事業の際、その都度募集して実施してきた。平成18年度からは、市民との協働を推進するため、地域で活動するNPOと連携したボランティアスタッフ育成事業に着手し、年間を通じた登録制ボランティアとして「府中市美術館サポートスタッフ」を発足させ、平成21年度には「府中市美術館ボランティア」に改称して、活

平成30年度

ボランティア説明会「創る楽しさ広げよう」

藪野健（当館館長）

4月21日 13名

	平成30年度	令和元年度
ボランティア登録者数	235	289
参加者数	186	188

5 | 市民文化の日

開館5周年となる平成17年以降、府中市美術館では毎年10月に開館記念日を設定し、常設展及び企画展の観覧料を無料とすることで、利用者の拡大、広報啓発活動の推進を図ってきた。平成21年度からは、近隣に位置する府中市生涯学習センター、府中の森芸術劇場、そして都立府中の森公園を加えた4施設の共同企画による「府中の森文化まつり」を開催し、観覧無料のほか様々なイベントを開催してきた。

さらに、平成26年度、府中市は10月の第2日曜日を「市民文化の日」とし

	平成30年度	令和元年度
開催日	10月14日	10月13日
参加者数	376	1,970

動の充実を図っている。

ボランティアスタッフには、ミーティングや研修を通じて資質の向上を企図しつつ、アートスタジオやワークショップの補助、彫刻メンテナンス、来館者への情報サービスや広報宣伝、イベント時の案内などの活動を担っていただいている。また、随時ボランティア説明会を実施している。

令和元年度

ボランティア説明会「美術の楽しさ広げよう」

藪野健（当館館長）

4月21日 11名

て設定し、「府中の森文化まつり」を実施していた4施設もこれに参加した。これは市内9つの文化施設で無料観覧やコンサート、スタンプラリー、アートマーケットなど様々なイベントを開催する事業である。府中市美術館では、常設展・企画展の無料観覧、ミュージアムグッズフェア、過去の展覧会ボスターの無料プレゼント、ワークショップなどを実施し、市民が美術館に親しむ機会となっている。

6 | 市民ギャラリー

1 | 利用一覧

No. 期間	展覧会名	
平成30年度		
1	4.1(日)~4.1(日)	第14回三多摩盆栽展
2	4.3(火)~4.15(日)	美×術 ―古典から探る美の形―
3	4.17(火)~4.22(日)	第31回府中油絵同好会展
4	4.24(火)~4.29(日)	水彩画サークルばれっと第13回展示会
5	5.1(火)~5.6(水)	宮本和郎日本画展・丹青会墨彩画展
6	5.22(火)~5.27(日)	第九回 府中※銅楽展
7	5.29(火)~6.3(日)	多摩に活きる作家たち ―平面と立体―
8	6.5(火)~6.10(日)	トライウッドコレクション展
9	6.12(火)~6.24(日)	彫刻と対話法Ⅳ 揺さぶられる作意
10	6.26(火)~7.1(日)	第9回多摩アンデパンダン展
11	7.6(金)~7.8(日)	眠るシャロン
12	7.24(火)~7.29(日)	全国公募府中書道展
13	8.2(木)~8.5(日)	第68回はたらく消防の写生会入賞作品展
14	8.7(火)~8.19(日)	藤倉英幸展
15	8.21(火)~8.26(日)	第10回牛の会展
16	3.19(火)~3.24(日)	「現代のマングラ」展
17	3.20(水)~3.24(日)	第1回みんなのアトリエ作品展
18	3.26(火)~3.31(日)	日本水彩画会東京西支部展

No. 期間	展覧会名	
令和元年度		
1	4.4(木)~4.7(日)	三多摩盆栽展
2	4.9(火)~4.14(日)	水彩画サークルばれっと第14回展示会
3	4.16(火)~4.21(日)	府中油絵同好会展
4	4.30(火)~5.5(日)	すてきな水彩画教室グループ展
5	5.25(土)~6.9(日)	府中市民美術展
6	6.18(火)~6.30(水)	彫刻と対話法Ⅴ カンガルーが走れば
7	7.25(木)~7.28(日)	第69回はたらく消防の写生会展
8	9.16(月・祝)~9.22(日)	第53回府中市民芸術文化祭(彫刻展)
9	9.23(月・祝)~9.29(日)	くる・めくるアート・コラージュ美・彩 合同展
10	10.1(火)~10.6(日)	第53回府中市民芸術文化祭(洋画展)
11	10.14(月・祝)~10.20(日)	第53回府中市民芸術文化祭(工芸展)
12	10.22(火)~10.27(日)	第53回府中市民芸術文化祭(府中版画展)
13	11.6(水)~11.9(土)	パッチワークキルトサークル展
14	11.13(水)~11.17(日)	第53回府中市民芸術文化祭(日本画展)
15	11.19(火)~11.24(日)	第11回牛の会展
16	11.26(火)~12.1(日)	七宝焼・植物画(ボタニカルアート)展
17	1.12(日)~1.19(日)	第64回北多摩地区中学校美術展
18	1.24(金)~2.4(火)	府中市連合書写会展
19	2.7(金)~2.16(日)	第22回府中市連合図工美術展
20	2.24(月・祝)~3.1(日)	手嶋遥 ―日読み―展
21	3.24(火)~3.27(金)	宮本和郎 丹青会展

2 | 市民ギャラリーにおける主催・共催事業

名称	
会期・入場者数	
内容	

平成30年度	令和元年度
・「彫刻と対話法Ⅳ 揺さぶられる作意」	・「府中市民美術展」
6月12日(火)~24日(日) 1,267名	5月25日(土)~6月9日(日) 1,996名
武蔵野美術大学大学院彫刻コース・芸術文化政策コース、府中市美術館の主催により、同大学院彫刻コース2年生7名の作品展示を行った。	市内で活動する絵画グループの推薦作品を展示した。
また、同大学院芸術文化政策コースの学生が作品解説リーフレットの執筆、編集、広報活動など展覧会運営を行った。	・「彫刻と対話法Ⅴ カンガルーが走れば」
・「藤倉英幸展」	6月18日(火)~6月30日(日) 774名
8月7日(火)~19日(日) 1,594名	武蔵野美術大学大学院彫刻コース・芸術文化政策コースの主催により、同大学院彫刻コース2年生8名の作品展示を行った。
貼り絵による北海道の風景画を展示した。	また、同大学院芸術文化政策コースの学生が作品解説リーフレットの執筆、編集、広報活動など展覧会運営を行った。

1 | 出版物

【展覧会図録】

長谷川利行展 七色の東京 2,300円
青春の苦悩と孤独を歓喜にかえた画家たち 木田金次郎展 1,400円*
へそまがり日本美術 2,750円(一般書籍)
おかえり美しき明治 2,000円
流れのなかにひかりのかたまり 2,200円(一般書籍)
青木野枝 霧と鉄と山と 記録集 360円
ふつうの系譜 2,500円

*印は、既に在庫がありません(令和3年3月31日現在)。

【公開制作リーフレット】

公開制作のコンセプトや制作状況を記録したリーフレット。(A 4判6頁)
各50円
公開制作73 金田実生「青空と月」
公開制作74 富長敦也「Love Stone Project- Fuchu」
公開制作75 原田郁「もうひとつの世界 10年目の地図」
公開制作76 山口啓介「メタモルフォセス」
公開制作77 高嶋英男「からっぽに満たされる」

【府中市美術館だより】

展覧会などの紹介や関連記事を掲載した小冊子。(B5判6-8頁 年2-3
回発行)既刊1-51号 1-26号各100円、27号以降無償配布

【府中市美術館研究紀要】

学芸員による研究報告集。(A4判)
既刊 1-22号 各1,000円

2 | ホームページ

開館に合わせ、独自にホームページを開設。企画展、常設展、公開制作、
ワークショップ、その他イベントなどの告知を行うと同時に、収蔵品の紹介、市
民ギャラリーの利用案内、刊行物などを掲載。平成20年4月に府中市ウェブ
サイトに統合した。

URL：http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/

【府中市美術館研究紀要 所収論考一覧】

第22号(令和元年度)
大澤真理子「五百城文哉《小金井の桜》について」

(1) 展覧会入場者数

	平成30年度		令和元年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数
常設展	2	47,278	4	93,067
企画展・所蔵品展	3	46,434	5	91,817
合計	5	93,712	9	184,884

(2) 教育普及事業参加者数

	36,467 平成30年度		令和元年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数
公開制作	3	15,996	3	43,454
アートスタジオ	20	1,227	30	1,991
ワークショップ	4	124	6	300
美術鑑賞教室	39	4,611	40	4,144
講座・講演会	23	1,535	13	2,317
ギャラリートーク	4	180	3	294
企画展関連イベント	85	11,411	7	38,356
公開制作関連イベント	2	86	3	56
団体鑑賞支援	4	289	5	390
教員研修会	4	167	2	19
大学等連携事業	15	420	12	415
ボランティア活動	51	421	7	477
合計	254	36,467	131	92,213

(3) 市民ギャラリー利用者数

	平成30年度		令和元年度	
	回数	入場者数	回数	入場者数
利用者数	18	14,347	21	25,428

(4) 図書室利用者数

	平成30年度	令和元年度
利用者数	4,859	9,529

(5) 全体利用者数

	平成30年度	令和元年度
(1)～(4)の合計	149,385	312,054

1 | 関係法規

府中市美術館条例

平成 11 年9月30日

条例第 17 号

改正

平成 14 年6月26日条例第 15 号

平成 24 年3月20日条例第 4 号

平成 30 年3月13日条例第 15 号

（目的）

第1条 この条例は、市民の心豊かな文化的生活の享受に寄与するとともに、地域社会における美術教育・美術文化の振興を図るため、美術館を設置し、その管理及び運営について必要な事項を定めることを目的とする。

（名称及び位置）

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

府中市美術館 府中市浅間町1丁目3番地

（施設）

第3条 府中市美術館（以下「美術館」という。）には、次の各号に掲げる施設を設ける。

- （1） 常設展示室（牛島憲之作品の展示を含む。）
- （2） 企画展示室
- （3） こども造形室
- （4） 公開制作室
- （5） 市民ギャラリー
- （6） その他必要な施設

（事業）

第4条 美術館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- （1） 美術作品及び美術に関する資料（以下「美術作品等」という。）の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- （2） 美術に関する調査及び研究に関すること。
- （3） 美術に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- （4） 美術に関する指導、助言及び相談に関すること。
- （5） 美術館の施設及び設備の使用に関すること。
- （6） 前各号に掲げるもののほか、府中市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認める事業

（休館日）

第5条 美術館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- （1） 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「国民の祝日」という。）に当たるときを除く。）
- （2） 国民の祝日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は国民の祝日に当たるときを除く。）
- （3） 1月1日から1月3日まで及び12月29日から12月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

（平 14 条例 15・一部改正）

（開館時間）

第6条 美術館の開館時間は、午前 10 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更することができる。

（観覧）

第7条 常設展示室及び企画展示室に展示されている美術作品等を観覧しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第 1 に定める観覧料を納入しなければならない。

（特別観覧）

第8条 美術館に収蔵されている美術作品等について学術研究等のため模写、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第 2 に定める特別観覧料を納入しなければならない。

（使用許可）

第9条 美術館の施設のうち市民ギャラリーを使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第 3 に定める使用料を納入しなければならない。

（条件の付与）

第10条 教育委員会は、第 7 条第 1 項に規定する観覧の許可、第 8 条第 1 項に規定する特別観覧の許可又は前条第 1 項に規定する市民ギャラリーの使用の許可（以下「観覧等の許可」という。）に際して、必要な条件を付けることができる。

（観覧等の許可の制限）

第11条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、観覧等の許可をしない。

- （1） 公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあるとき。
- （2） 施設又は付属する器具等を損傷するおそれがあるとき。
- （3） その他管理上支障があるとき。

（観覧等の許可の取消し等）

第12条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、観覧等の許可に係る条件を変更し、又は当該許可を取り消すことができる。

- （1） 観覧等の許可を受けた者が、この条例又はこれに基づく規則に違反したとき。
- （2） 観覧等の許可を受けた目的又は観覧等の許可に係る条件に違反したとき。
- （3） 災害その他の事故により、施設を使用することができなくなったとき。

（4） その他公益上特に必要があるとき。

（観覧料等の納入時期）

第13条 第 7 条第 2 項に規定する観覧料、第 8 条第 2 項に規定する特別観覧料及び第 9 条第 2 項に規定する市民ギャラリーの使用料（以下「観覧料等」という。）は、その観覧等の許可を受けた際に納入しなければならない。ただし、市長が相当の理由があると認めるときは、後納することができる。

（平 30 条例 12・一部改正）

（観覧料等の減免）

第14条 市長は、特別の理由があると認めるときは、観覧料等を減額し、又は免除することができる。

（平 30 条例 12・一部改正）

（観覧料等の不還付）

第15条 既に納入した観覧料等は還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

（平 30 条例 12・一部改正）

（特別の設備等の使用）

第16条 第 9 条第 1 項の規定に基づき市民ギャラリーの使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、当該施設に特別の設備をし、又は付属する器具以外の器具を使用しようとするときは、教育委員会の許可を受けなければならない。

（使用権の譲渡禁止）

第17条 使用者は、使用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

（原状回復の義務）

第18条 使用者は、市民ギャラリーの使用を終了したとき、又は第 12 条第 1 号若しくは第 2 号の規定に該当して使用の許可を取り消されたときは、直ちに原状に回復しなければならない。

（損害賠償の義務）

第19条 美術館の施設若しくは設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失した者は、これにより生じた損害額を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めたときは、その額を減額し、又は免除することができる。

（平 30 条例 12・一部改正）

（入館の制限等）

第20条 教育委員会は、美術館の秩序を乱し、若しくは乱すおそれのある者の入館を禁止し、又はその者に対して退館を命ずることができる。

（販売又は営業行為の禁止）

第21条 美術館内においては、教育委員会の許可を受けないで美術館の入館者に物品を販売し、又は営業行為をしてはならない。

（運営協議会の設置）

第22条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条第 1 項の規定に基づき、府中市美術館運営協議会（以下「運営協議会」という。）を美術館に置く。

2 運営協議会は、委員 12 人以内をもって組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- （1） 学校教育及び社会教育の関係者
- （2） 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- （3） 学識経験を有する者
- 4 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 運営協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

（平 24 条例 4・一部改正）

（選定委員会の設置）

第23条 美術作品等の収集及び評価について審議するため、府中市美術品収集選定委員会（以下「選定委員会」という。）を美術館に置く。

2 選定委員会は、教育委員会が委嘱する学識経験を有する委員 6 人以内をもって組織する。

3 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 選定委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

（委任）

第24条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が別に定める。

付 則

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

（美術館の供用開始）

2 美術館の供用開始の日は、教育委員会規則で定める。

付 則（平成 14 年6月26日条例第 15 号）

この条例は、公布の日から施行する。

付 則（平成 24 年3月30日条例第 4 号）

この条例は、平成 24 年4月1日から施行する。

付 則（平成 30 年3月13日条例第 12 号）

（施行期日）

1 この条例は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める日から施行する。

- （1） 第 13 条ただし書、第 14 条、第 15 条ただし書、第 19 条及び別表第 1 の改正規定 公布の日
- （2） 別表第 3 の改正規定及び次項の規定 平成 30 年7月1日

（経過措置）

2 この条例による改正後の府中市美術館条例の規定は、平成 31 年3月 16 日（以下「適用日」という。）以後の使用について適用し、適用日前の使用及び平成 30 年7月1日前に使用の許可の申込みがされている適用日以後の使用については、なお従前の例による。

別表第 1（第 7 条）

（平 30 条例 12・一部改正）

●美術館観覧料

区分		1 人 1 回につき	
		個人	団体 (20 人以上)
常設展	一般	200 円	150 円
	高校生・大学生	100 円	80 円
	小学生・中学生	50 円	30 円
企画展		企画展が行われる都度市長が定める額	

備考

1 常設展とは、常設展示室における美術館の収蔵する美術作品等の展示をいう。

2 企画展とは、常設展以外の特別な企画に基づく展示をいう。

3 高校生・大学生とは、高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者をいう。

- 小学生・中学生とは、小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者をいう。
- 学齢に達しない者の観覧料は、無料とする。
- 企画展の観覧料を納入した者は、常設展の観覧料は、無料とする。

別表第2(第8条)

利用区分	料金
模写・模造	1点1日につき　1,000円
撮影	1点1日につき　3,000円
熟覧	1点1日につき　300円
原板使用	1点1日につき　2,000円

別表第3(第9条)

(平30条例12・一部改正)

区分		使用料
市内に居住している者	全面使用	20,000円
	2分の1使用	10,000円
市外に居住している者	全面使用	40,000円
	2分の1使用	20,000円

備考

- この使用料は、午前10時から午後5時までの全日使用料とする。
- 使用の延長は、美術館の開館時間が延長されている場合に限り認めるものとし、その使用料は、1時間につき全日使用料の20パーセントの額とする。この場合において、100円未満の端数が生じたときは、その端数金額を切り捨てるものとする。

府中市美術館条例施行規則

平成11年11月1日

教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条　この規則は、府中市美術館条例(平成11年9月府中市条例第17号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(観覧券の交付)

第2条　府中市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、府中市美術館(以下「美術館」という。)の常設展又は企画展を観覧しようとする者に観覧料と引換えに観覧券(第1号様式)を交付する。

2　観覧券の発券時間は、午前10時から午後4時30分までとする。ただし、教育委員会が開館時間外に観覧券の交付を必要と認める場合は、これを変更することができる。

(使用の申込み)

第3条　条例第3条第5号に規定する市民ギャラリー(以下「市民ギャラリー」という。)を使用しようとする者(以下「使用者」という。)は、府中市美術館市民ギャラリー使用申込書(第2号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

2　市民ギャラリーの申込期間は、次表のとおりとする。

区分	申込期間
市内に居住する者	使用日の12月前から前日まで
市外に居住する者	使用日の6月前から前日まで

(使用期間)

第4条　市民ギャラリーの使用期間は、原則として1週間を1単位とし、引続き使用する場合は、4週間を限度とする。

(使用の許可)

第5条　教育委員会は、第3条の規定による申込みについて適当と認めるときは、府中市美術館市民ギャラリー使用許可書(第3号様式)を交付する。

(使用の範囲)

第6条　教育委員会は、使用者が美術に関する展覧会等を開催する場合に限り、市民ギャラリーの使用を許可するものとする。ただし、当該展覧会等の開催が収益を目的としているときは、使用を許可しない。

(使用の変更等の届出)

第7条　使用者が市民ギャラリーの使用を変更し、又は取り消そうとするときは、府中市美術館市民ギャラリー使用変更・取消申出書(第4号様式)を教育委員会に提出しなければならない。

- 市民ギャラリーの使用の変更に係る前項の申出は、使用日の3月前までに行わなければならない。
- 市民ギャラリーの使用の変更は、教育委員会が相当の理由があると認める場合に限り、許可するものとする。

(観覧料等の減免)

第8条　条例第14条の規定により美術館の観覧料等を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

- 市内の中学生以下の者が常設展又は企画展を観覧する場合
- 次に掲げる者が常設展又は企画展を観覧する場合
 - 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者
 - 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
 - 戦傷病者特別援護法(昭和38年法律第168号)第4条に規定する戦傷病者手帳の交付を受けている者
 - 原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律(平成6年法律第117号)第2条に規定する被爆者手帳の交付を受けている者
 - 東京都愛の手帳交付要綱(昭和42年民児精発第58号)第1条に規定する愛の手帳(これに類する療育手帳等を含む。)の交付を受けている者
 - アからオまでに掲げる者のほか、障害者基本法(昭和45年法律第84号)第2条第1号に規定する障害者であることを明らかにすることができる書類を有する者

- 前号の場合において介助者が同行する場合(介助者が複数で同行する場合における観覧料の免除対象人数は1人とする。)
- 市内に居住する70歳以上の者が常設展を観覧する場合
- 市又は教育委員会が主催し、又は共催する事業で市民ギャラリーを使用する場合
- 府中市立学校若しくは市内の幼稚園の教育活動で又は市内の保育所の保育活動で市民ギャラリーを使用する場合

2　前項に定めるもののほか、教育委員会が特に必要があると認めるときは、美術館の観覧料等を減額し、又は免除することができる。

3　条例第14条の規定による観覧料の減額又は免除を受けようとする者は、観覧しようとする際に、減額又は免除の対象であることを示すことにより教育委員会に申し込み、承認を得なければならない。ただし、教育委員会が特に理由があると認める場合は、この限りでない。

4　条例第14条の規定による市民ギャラリーの使用料又は特別観覧料の減額又は免除を受けようする者は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるときに、府中市美術館使用料等減額・免除申込書(第5号様式)により教育委員会に申込みをしなければならない。

- 市民ギャラリー使用料　第3条第1項の規定による申込みのとき。
- 特別観覧料　第10条第1項の規定による申請のとき。
- 教育委員会は、前項に規定する申込みについて承認するときは、府中市美術館使用料等減額・免除承認書(第6号様式)を交付する。(平30教委規則18・全改)

(観覧料等の還付)

第9条　条例第15条ただし書により還付する額は、別表に定めるとおりとする。

(特別観覧の申請)

第10条　条例第8条に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ府中市美術館特別観覧許可申請書(第7号様式)により教育委員会に申請しなければならない。

2　教育委員会は、前項に規定する申請について適当と認めるときは、府中市美術館特別観覧許可書(第8号様式)を交付する。

(特別観覧の場所)

第11条　特別観覧は、教育委員会が指定する場所において行わなければならない。

(図書等の館内閲覧等)

第12条　美術館に所蔵されている図書、文献その他資料の閲覧等は、図書室その他の美術館内の所定の場所で行うものとする。

(遵守事項)

第13条　美術館の入館者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 美術作品等に触れないこと。
- 美術作品等の近くでインク等を使用しないこと。
- 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- 危険物を持ち込まないこと。
- 畜類を伴い入れないこと。
- 他の入館者に迷惑をかけないこと。
- その他館長が必要と認めて指示する事項

(運営協議会の運営等)

第14条　条例第22条に規定する府中市美術館運営協議会(以下「運営協議会」という。)は、美術館の運営について、館長の諮問に応じ審議し、答申するほか、館長に対し意見を述べる。

2　運営協議会に会長及び副会長を置く。

3　会長及び副会長は、委員の互選による。

4　会長は会務を総理し、運営協議会を代表する。

5　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(運営協議会の会議)

第15条　運営協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

- 運営協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 運営協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 会議は公開を原則とする。ただし、会長が必要があると認めるときは、これを非公開とすることができる。

(選定委員会の運営等)

第16条　条例第23条に規定する府中市美術品収集選定委員会(以下「選定委員会」という。)は、美術館における美術作品等の収集について、館長の諮問に応じ審議し、答申する。

- 選定委員会に委員長及び副委員長を置く。
- 委員長及び副委員長は、委員の互選による。
- 委員長は会務を総理し、選定委員会を代表する。
- 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(選定委員会の会議)

第17条　選定委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 選定委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 選定委員長は、会議において関係職員に対し説明又は資料の提出を求めることができる。
- 会議は、非公開とする。

(雑則)

第18条　この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

付　則

この規則は、公布の日から施行する。

付　則(平成15年4月1日教委規則第3号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

付　則(平成30年4月24日教委規則第18号)

(施行期日)

1　この規則は、公布の日から施行する。

(適用区分)

2　この規則による改正後の第8条第1項第5号及び第6号、同条第4項並びに第5項の規定は、平成31年3月16日以後の府中市美術館の市民ギャラリーの使用について適用し、同日前の府中市美術館の市民ギャラリーの使用については、なお従前の例による。

(経過措置)

3　この規則の施行の際、この規則による改正前の府中市美術館条例施行規則第5号様式及び第6号様式による用紙で、現に残存するものは、所要の修正を加え、なお使用することができる。

第1号様式(表)(第2条)(省略)

別表(第9条)

市民ギャラリー使用料還付表

使用者の責任でない理由によって使用することができないとき。	公益上又は市の特別の必要により使用許可を取り消すとき。	使用日の3月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。	使用日の2月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。	使用日の1月前までに使用の取消しを申請し、教育委員会が相当の理由があると認めるとき。
使用料の100%			使用料の50%	使用料の25%

第 1 号様式(表)(第2条)

No.	No.
観覧券 府中市美術館	観覧券

府中市美術館運営規程

平成 12 年8月30日

教育委員会規程第2号

府中市美術館運営規程(平成 11 年 10 月教育委員会規程第3号)の全部を改正する。

(目的)

第1条 この規程は、府中市美術館(以下「美術館」という。)の運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(職の設置)

第2条 美術館に館長及び副館長を置く。

- 2 館長は、地方公務員法(昭和25年法律第261号)第3条第3項第3号に規定する特別職とする。
- (令2教委規程5・一部改正)

(職務)

第3条 館長は、美術館の運営に関し助言を行い、美術館を代表する。

(平20教委規程4・令2教委規程5・一部改正)

第4条 副館長は、府中市職務権限規程(昭和45年7月府中市訓令第8号)に定めるもののほか、府中市教育委員会事務局職務権限規程(昭和52年11月教育委員会規程第15号)の例により職務を行い、権限を行使するほか、教育委員会の指揮を受け、博物館法第4条第2項に規定する業務を行う。

(平20教委規程4・全改、令2教委規程5・一部改正)

(権限行使の基準)

第5条 この規程に定めのない事項については、府中市教育委員会事務局の例による。

付 則

この規程は、平成12年9月1日から施行する。

付 則(平成20年3月21日教委規程第4号)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

付 則(令和2年3月26日教委規程第5号)

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2 | 組織(令和2年3月31日現在)

府中市—文化スポーツ部—美術館

館長(囑託)	藪野 健	平成27年4月—
副館長	相馬修央	平成30年4月—
副館長補佐	志賀秀孝	平成29年4月—令和2年3月

管理係

係長	尾崎伸雄	平成28年4月—
事務職員	原田亜紀子	平成26年4月—令和2年3月
	古田ちひろ	平成29年4月—

学芸係

係長	志賀秀孝	平成20年4月—平成31年3月
	鎌田 享	平成31年4月—
学芸員(主査)	鎌田 享	平成30年4月—平成31年3月
学芸員(事務職員)	金子信久	平成12年10月—
	神山亮子	平成12年10月—
	音ゆみ子	平成17年4月—
	小林真結	平成24年4月—
	大澤真理子	平成30年4月—

教育普及担当

学芸員(主査)	武居利史	平成18年4月—
---------	------	----------

〈加盟団体〉

日本博物館協会	登録	平成12年2月24日
全国美術館会議	加盟	平成9年6月19日
美術館連絡協議会	加盟	平成13年4月

3 | 各種委員会(名簿)

■府中市美術館運営協議会(任期2年)

平成28年9月1日—平成30年8月31日

会長	薩摩雅登
副会長	谷矢哲夫
委員	畔上洋一
	石田和男
	大杉 健
	隠岐由紀
	清水正人
	馬場一記
	堀江一男
	吉田裕子
	米谷一志
	鷲尾 仁

平成30年9月1日—令和2年8月31日

会長	薩摩雅登
副会長	谷矢哲夫
委員	江川雄一
	隠岐由紀子
	上村貴子
	栗原昭良
	寺田愼吾
	堀江一男
	松浦浩司
	松林眞澄
	吉田裕子
	米谷一志

■府中市美術品収集選定委員会(任期2年)

平成28年11月1日—平成30年10月31日

委員長	草薙奈津子
副委員長	薩摩雅登
委員	児島 薫
	佐川美智子
	田中晴久
	永井龍之介

平成30年11月1日—令和2年10月31日

委員長	薩摩雅登
副委員長	田中晴久
委員	児島 薫
	佐川美智子
	永井龍之介
	山梨絵美子

11 | 利用案内

1 | 開館時間、休館日、観覧料など

■開館時間

午前10時から午後5時まで(展示室への最終入場は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)

国民の祝日の翌日(平日の場合)

年末年始、展示替えの期間

■観覧料(1人につき)

		個人	団体(20名以上)
常設展	一般	200円	150円
	高校生・大学生	100円	80円
	小学生・中学生	50円	30円
企画展		展覧会ごとに定める	

※未就学児及び障害者手帳等お持ちの方は無料。

■府中っ子学びのパスポート

府中市内在住、在学の小・中学生は、「府中っ子学びのパスポート」を提示すると、いずれの展覧会も無料で観覧可能。

■府中市美術館メンバーシップ

入会から1年間、何度でも全ての展覧会を無料で観覧できるほか、「府中市美術館だより」(年2回発行)の送付、館内カフェ、ショップにおける割引などの特典がある。

[会費] 一般 2,500円
高校生・大学生 1,500円
小学生・中学生 800円

[団体会費] 一般2,000円
高校生・大学生 1,200円
小学生・中学生 640円

[学校・法人会費] 100,000円

[賛助会員会費] 個人 5,000円
団体・企業 30,000円
大学 50,000円

2 | 館内設備

- ・バリアフリー対応(車椅子)
展示室をはじめ、館内の全ての設備を車椅子で利用可能。
- ・だれでもトイレ
1階と2階に1カ所ずつ。おむつ替えシートを完備。

- ・貸出物
ベビーカー(2台)、車椅子(4台)
- ・駐車場
身体障害者用の駐車スペースあり(美術館地下)

3 | 交通案内

■電車利用の場合

- ・京王線府中駅から

- 1 ちゅうバス(多磨町行き)「府中市美術館」下車すぐ
府中駅バスターミナル7番乗り場より、8時から毎時30分間隔で運行
- 2 京王バス武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目」下車すぐ
- 3 京王バス武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分
- 4 京王バス国分寺駅南口行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

- ・京王線東府中駅北口から

- 1 徒歩17分
- 2 ちゅうバス(府中駅行き)「府中市美術館」下車すぐ
8時5分から毎時30分間隔で運行

- ・JR中央線武蔵小金井駅南口から

- 1 京王バス府中駅行き(一本木経由)「一本木」下車すぐ
- 2 京王バス府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

- ・JR中央線国分寺駅南口から

- 1 京王バス府中駅行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」下車徒歩8分

■自動車をご利用の場合

- ・中央自動車道調布インターチェンジから約3.5キロメートル
- ・中央自動車道国立・府中インターチェンジから約4.4キロメートル
- ・八王子方面からのアクセスは、府中スマートインターチェンジをご利用いただけます。ETC搭載車のみ通行可能です。

4 | 所在地

〒183-0001 東京都府中市浅間町1の3 都立府中の森公園内

TEL : 042-336-3371 (代表)

FAX: 042-335-7576

ハローダイヤル: 050-5541-8600

ホームページ: <http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

府中市美術館年報
平成30-令和元年度

編集
府中市美術館
印刷
株式会社オフィスエンズ

発行
府中市美術館 ©2021
東京都府中市浅間町 1-3

発行日
令和3年3月

ANNUAL REPORTS OF FUCHU ART MUSEUM
April 2018-March 2020

Edited by
Fuchu Art Museum

Printed by
office ens Co., Ltd.

Published by
Fuchu Art Museum ©2021
1-3 Sengen-cho, Fuchu-shi, Tokyo, Japan

Published in
March 2021